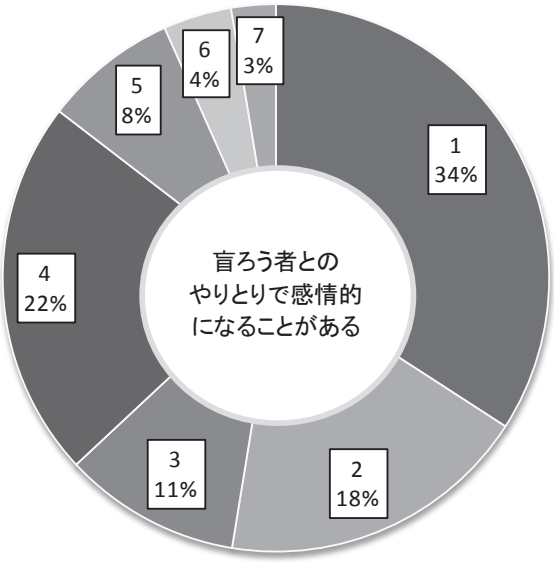
■ 盲ろう者とのやりとりで感情的になることがある

「あてはまらない群」が 63.1%

・あてはまる群 14.6%となっている。

表・図 2-4-17　盲ろう者とのやりとりで感情的になることがある

		人数	割合
あてはまらない群	1	557	34.1%
	2	301	18.4%
	3	171	10.5%
どちらでもない	4	365	22.4%
あてはまる群	5	129	7.9%
	6	66	4.0%
	7	43	2.6%
合計		1632	100.0%



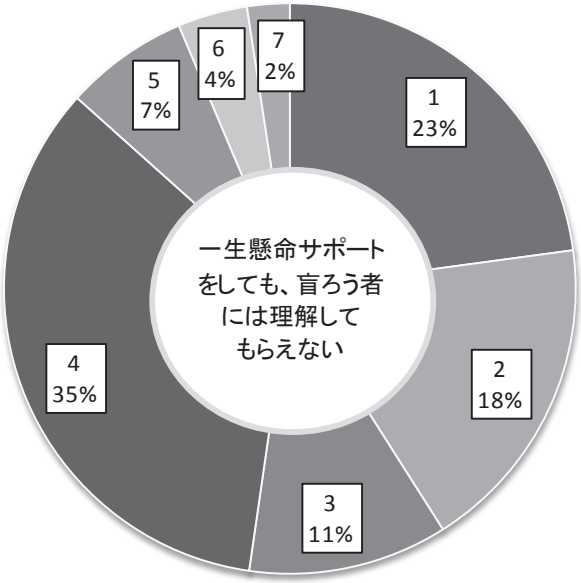
■ 一生懸命サポートをしても、盲ろう者には理解してもらえない

「あてはまらない群」が 52.3%

・「あてはまる群」は 13.3%となっている。

表・図 2-4-18　一生懸命サポートをしても、盲ろう者には理解してもらえない

		人数	割合
あてはまらない群	1	372	22.9%
	2	296	18.2%
	3	183	11.2%
どちらでもない	4	560	34.4%
あてはまる群	5	114	7.0%
	6	64	3.9%
	7	39	2.4%
合計		1628	100.0%



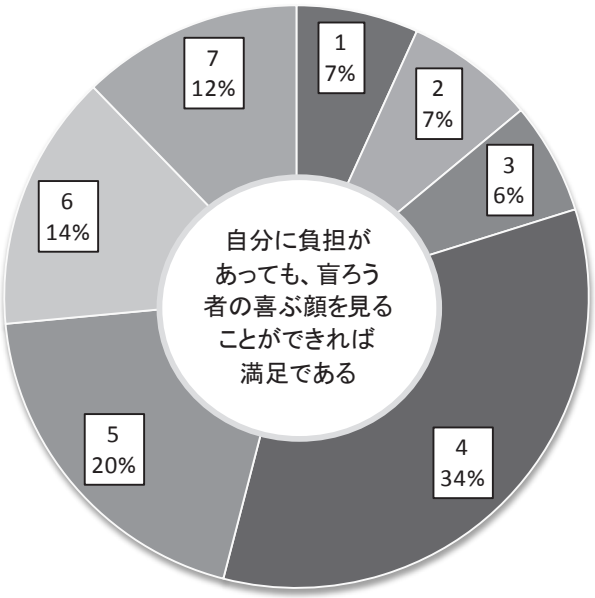
■ **自分に負担があっても、盲ろう者の喜ぶ顔を見ることができれば満足である**

「あてはまる群」が 46.0%

・「あてはまらない群」は 20.2%となっている。

表・図 2-4-19　自分に負担があっても、盲ろう者の喜ぶ顔を見ることができれば満足である

		人数	割合
あてはまらない群	1	110	6.8%
	2	117	7.2%
	3	101	6.2%
どちらでもない	4	551	33.9%
あてはまる群	5	317	19.5%
	6	232	14.3%
	7	199	12.2%
合計		1627	100.0%



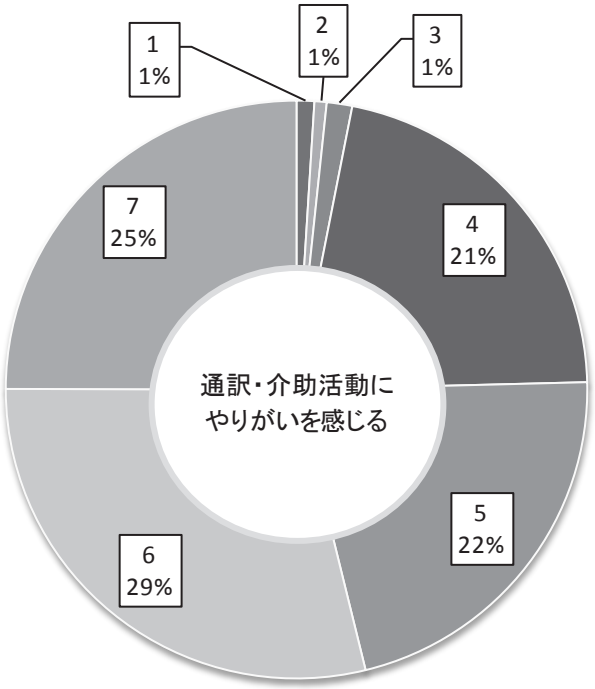
■ **通訳・介助活動にやりがいを感じる**

「あてはまる群」が 75.4%

・「あてはまらない群」は 3.1%となっている。

表・図 2-4-20　通訳・介助活動にやりがいを感じる

		人数	割合
あてはまらない群	1	174	10.7%
	2	139	8.5%
	3	136	8.3%
どちらでもない	4	787	48.2%
あてはまる群	5	153	9.4%
	6	131	8.0%
	7	112	6.9%
合計		1632	100.0%



（6）尊重性

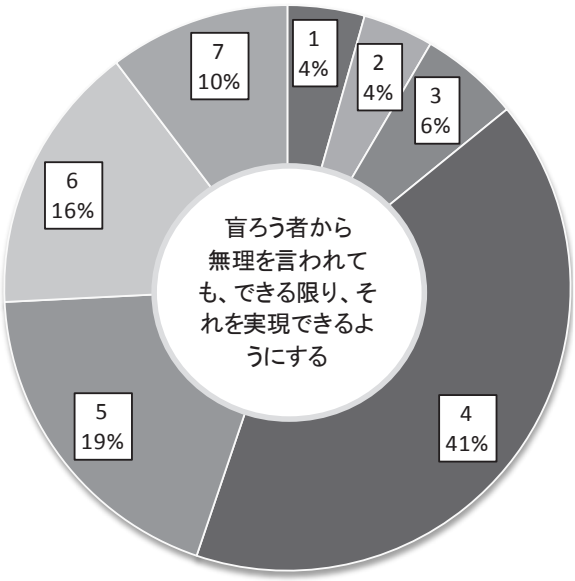
■ **盲ろう者から無理を言われても、できる限り、それを実現できるようにする**

「あてはまらない群」が 14.1%

・「あてはまる群」は 44.8%となっている。

表・図 2-4-21　盲ろう者から無理を言われても、できる限り、それを実現できるようにする

		人数	割合
あてはまらない群	1	72	4.4%
	2	66	4.0%
	3	93	5.7%
どちらでもない	4	672	41.1%
あてはまる群	5	311	19.0%
	6	253	15.5%
	7	169	10.3%
合計		1636	100.0%



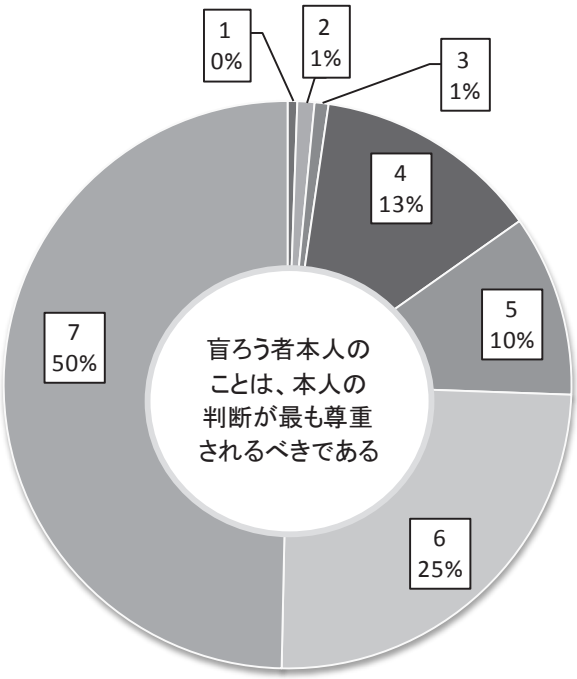
■ **盲ろう者本人のことは、本人の判断が最も尊重されるべきである**

「あてはまる群」が 84.8%

・「あてはまらない群」は 2.3%となっている。

表・図 2-4-22　盲ろう者本人のことは、本人の判断が最も尊重されるべきである

		人数	割合
あてはまらない群	1	9	0.5%
	2	16	1.0%
	3	13	0.8%
どちらでもない	4	212	12.9%
あてはまる群	5	170	10.3%
	6	407	24.8%
	7	816	49.7%
合計		1643	100.0%



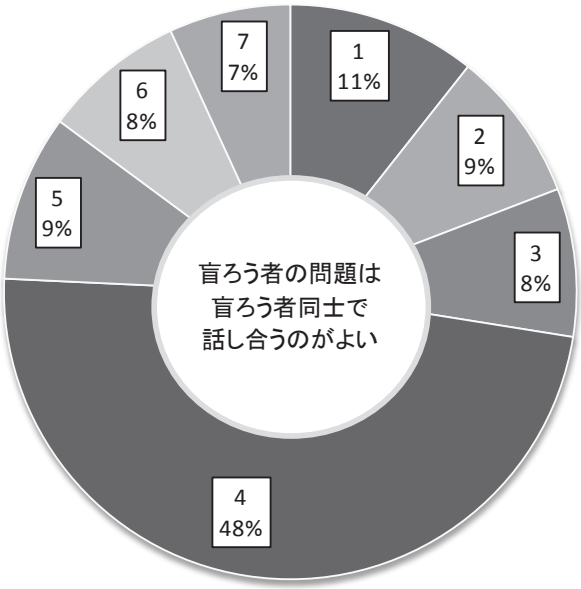
■ **盲ろう者の問題は盲ろう者同士で話し合うのがよい**

「あてはまらない群」が 27.5%

・「あてはまる群」は 24.3%となっている。

表・図 2-4-23　盲ろう者の問題は盲ろう者同士で話し合うのがよい

		人数	割合
あてはまらない群	1	174	10.7%
	2	139	8.5%
	3	136	8.3%
どちらでもない	4	787	48.2%
あてはまる群	5	153	9.4%
	6	131	8.0%
	7	112	6.9%
合計		1632	100.0%



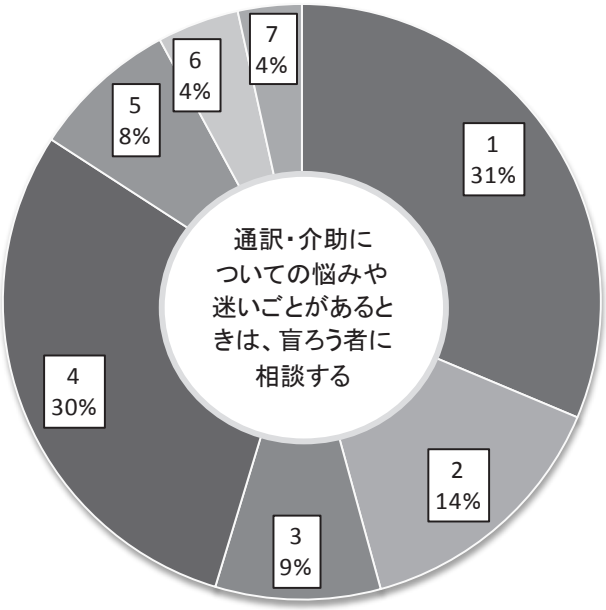
■ **通訳・介助についての悩みや迷いごとがあるときは、盲ろう者に相談する**

「あてはまらない群」が 54.7%

・「あてはまる群」は 15.8%となっている。

表・図 2-4-24　通訳・介助についての悩みや迷いごとがあるときは、盲ろう者に相談する

		人数	割合
あてはまらない群	1	509	31.3%
	2	234	14.4%
	3	145	8.9%
どちらでもない	4	479	29.5%
あてはまる群	5	129	7.9%
	6	72	4.4%
	7	56	3.4%
合計		1624	100.0%



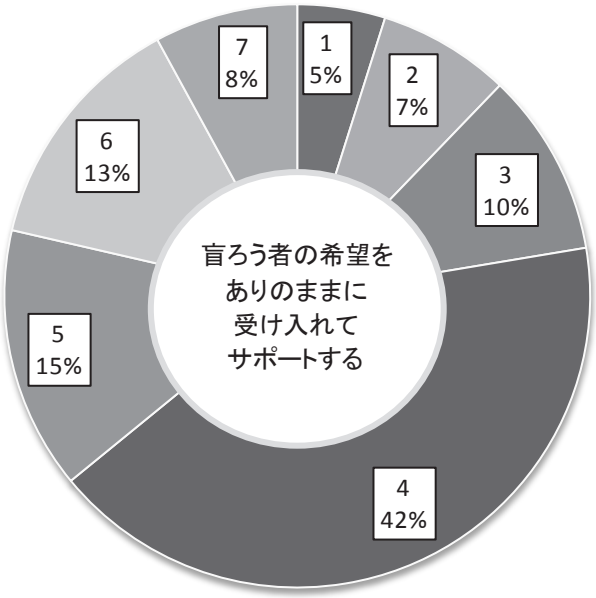
■ 盲ろう者の希望をありのままに受け入れてサポートする

「あてはまらない群」が 22.4%

・「あてはまる群」は 35.9%となっている。

表・図 2-4-25　盲ろう者の希望をありのままに受け入れてサポートする

		人数	割合
あてはまらない群	1	79	4.9%
	2	119	7.3%
	3	166	10.2%
どちらでもない	4	679	41.7%
あてはまる群	5	237	14.6%
	6	219	13.5%
	7	129	7.9%
合計		1628	100.0%



５．通訳・介助における困難・ニーズ（自由回答）

（１）盲ろう者

①盲ろう者とのコミュニケーションの難しさ

・相互に情報伝達不足が生じいき違い等にそうぐうしたりするケースがある。コミュニケーションをとることの難しさを感じる。日頃の接触が欠かせないと思います。

・盲ろう者一人ひとりの生活環境をきちんと理解したうえで、盲ろう者と接しなければいけないと思いますが、私自身まだそれが出来ていないので、話をする内容が浅くなってしまいます。

・ことばの数が少ない方がいらして、理解してもらう為に通訳する時に単語の言いかえをする。本人がわかったふりをしている時がある。また、本人が自分の症状、病名を医師に聞いたが、医師は両親に聞きなさいと言い、両親は本当のことを本人に言わない。その事を私に質問してきた。私は「どうしてだろうね？」としか答えられなかった。

・天気の状況説明が難しい。台風のようにこれから風雨が激しくなるので、外出は早めに済ませたほうが良いと話しても、なかなか理解してもらえなかった。店内でいくつかの商品を説明（音声）していると、他のお客さんで混んできたときがあった。

・盲ろう者の方の手話が速いので、一回では読み取れず、ゆっくりお願いすると読み取れた。（活動ではないが、道端でばったりと出会い、郵便局まで行くとのこと、一緒に行ってはがきを買う手伝いをした。銀行のときも手話で盲ろう者ろ行員さんへの通訳したこともあったりする。

・私は 40 代に盲ろう者を担当する場合がありますが、その盲ろう者はすぐに自分の世界に入り込み、ひとりで喜んだり怒ったりしておられ、私たち（担当者 3～4 人）の情報や対話をほとんど拒否されます。近くの公園のお散歩や昼食を食べに行きますが、途中でも自分の世界で独り言を言われて、通訳、会話がほとんど成り立たないので、困っています。

・手話が、盲ろう者の理解できるレベルに達しない通訳・介助者ばかりで、友の会から離れてしまうので、盲ろう者自身のレベルが育っていかない。

・情報を提供する時時間がかかる。盲ろう者とコミュニケーションをとれない時は通じず困る。

・点字、手書き文字、指点字、触手話など、勉強の入り口まで行ったのですが、どれも難しく続きませんでした。手話を少し勉強しているのですが、盲ろうの方には通じることができなく、残念に思いました。手書き、指点字など、すこしでも通じるととてもうれしく思いました。

・盲ろう者一人一人通訳方法も違うし、伝わり方（伝え方）も違うので、伝えることが本当に難しい。

・盲ろう者同士で差があり(情報収集できる人、できない人、意思疎通方法や情報処理力)、みんな同じように知ってほしいことでも伝わりにくいことが多い。個々のレベルに合わせることが重要と感じる。

・「できない」ことが伝わらない時は、非常に困る。特に、聴覚障害の方が盲になり、読み取りがまだ困難な方。

・盲ろう者に伝わる伝わらないかは、通訳者の技量によるところが大きいと感じます。盲ろう者それぞれに伝わる通訳をすることが私の課題です。きちんと伝われば、偏った考え方にもならずにすむと思うのですが、なかなか難しいと感じてます。

・盲ろう者がとった行動が周辺にいる一般の方に不快な思いをさせていると感じたため、そのことを伝えたが、それが十分に伝わらず、通訳・介助者がその一般の方に謝らざるをえなかったこと。

・間違った情報が入った場合、訂正出来ないのが困ります。影響力のある人の情報で操作されやすい。

・抽象的なことをどう伝えるか経験していないだろうことをどう伝えるか。難しく、考えることがある。
・コミュニケーション方法でいろいろあります。通じ合えないときは、自分の手話表現にこだわらず、通訳者の方にも歩み寄ってほしい時が多々あります。
・盲ろう者とのコミュニケーション不足（自分の技術の不足）を補う方法がわからない時、くり返しくり返し手書き文字などを使っても、今一つ伝え合えない時、盲ろう者の認識が不通とかけ離れているのかなと思う。とても間違っていると感じて何がそうさせているのかを問うが、答えを引き出せない場合、だれに相談したらいいのかなあ～と思う。個人情報を漏らすことになると思うから、また、自分の判断が（とらえ方が）間違っているかも・・とも。ジレンマ。
・通訳・介助の経験が少ないこともありますが、盲ろう者一人一人に合った通訳・介助が必要で、お互い、コミュニケーションがうまく取れないため、悩みます。少しずつあきらめずに、続けていきたいと思います。
・連絡方法がパソコンメールに限られており、盲ろうの方のパソコンも調子が悪くなることが多くお互いに困ることある。
・障害のために、同じことを何度も繰り返し伝えなくてはならない。定期的に同じ問題が起こる。・伝えたい内容がなかなか伝わらないこと。
・視覚障害ベースの人は聴覚障害ベースの人に対する理解が足りないように思われる。会話のスピード、言語の取得等において
・一生懸命触手話で通訳するが、通じない時は強い口調と表情で怒るのでショックを受ける。
・事務所に盲ろうの方が 2 人通われています。当然盲ろうの方以外の方も通われていますが、なかなかコミュニケーションがうまくいかないです。知的と聴覚の重複障害者の方は、語彙が少なく、話される内容も単純ですが、その方は盲ろうの方と仲良くしたいという気持ちはもっておられます。盲ろう者が話がつまらないと言って拒否することが多々あります。仲間意識をもってもらうには、どのような声かけや体験が必要なのか考えることが多いです。ご本人の困りごとの大きさを考えると、なかなか他者の困りごとや障害の理解を促すことは難しいかもしれないですが、その辺りをもっと考えていかないとと思っています。
・話下手なので話題作りは苦労する。必要な話を優先しながらも、話がとぎれる時はそばにいるだけの時があり、近くにいる人に話題をふってもらうこともある。
・ろうベースの人とは、歩行誘導以外ほとんど対応できない。
・盲ろう者の方との通訳・介助の経験はあまりなく、たまにお会いした時にお話しする程度です。触手話でコミュニケーションをとっていますが、きちんと通じているのかわかりません。触手話をどう練習すればよいのかわかりません。
・全国盲ろう大会で、各県の盲ろう者と触手話で接する時、前もって手話表現が違う場合もあることを伝えますが、講演で、私が表した手話が、盲ろう者には違う意味で受け取ったら、話の内容が違ったものになってしまう場合もあるので、その辺をどのようにクリアしたらよいのか、悩むことがあります。
・盲ろう者の話を聞いてあげることが多く、なかなか意見など言えません。手話や指文字を勉強中です。なかなか上手になれません。
・依頼されたことが第３者に受け入れてもらえなかったり反応がない時　・こちらの意図したことが相手に伝わりにくい時
・登録通訳介助とは別に、活動団体として聴覚障害者デイサービス、聴覚障害者コミュニケーション相談支援事業で盲ろう者の支援、訪問をしている。聴覚＋中途盲でコミュニケーションは手の平のみ。伝え

たいことの半分も伝えられないし、もどかしさを感じる。情報を欲してはいるが、なかなか難しい。てんかん発作時は伝えられない。

・「通訳・介助」がどういうことかをまだ理解できていない。盲ろう者の場合、第三者の発言を通訳しても理解してもらえず、会話が成立しない時。盲ろう者の手話が読み取れない時。また逆に、うまく伝えられない時。

②盲ろう者との関わり

・盲ろう者が第三者に対してとても感情的になり怒り出す時がある。そんな時は通訳している自分にとっても精神的に苦痛であるがなるべく平常心を保とうと努力する。しかし限界かなと思う時もありどう対応したら良いか悩んでいる。盲ろう者が自分のニーズをきちんと伝えてくれない時があり、聞き返そうとしたりしても受け入れてくれず、ニーズから外れたことを伝えてしまうと怒り出すことがあり、その対応も困っている。ご本人は伝わっていると思っているようだが、言葉足らずのため、ニーズを把握するのが難しい。盲ろう者が加齢とともに出来ていたことが出来なくなっていって、ご自分では自覚されていないため、私や周囲の人、環境に出来ない理由を押しつけることが多くなり、今は見守るしかないが、今後増々そういったことが多くなるだろうと思うと負担である。

・自立支援という名称で盲ろう者を支援は誤りあり。当事者に対して私達は同じ目線で会話をすることが大切です。障害者の…を強く出しすぎないようにするが良い。全国の盲ろう者や視聴障害者が何人各都道府県内に住んでいるか明確にして、その状況に応じた支援を考えて支援をするのが良い。私達と同じ目線で同行支援するが良いと思う。

・盲の方だけでなく全ての障害者が介助より上なのか考え所。今後も盲等の勉強はしていく考えていますが登録しても話が無いし、盲の方も介助される側として毎回同じ方の希望が多いと思うし、登録だけで終ってしまわない様にしたいですがね。

・家族さんからのその人の状況（病気の事や、本人の思い等）の説明が無く、家から出てどこかへ行って…と言う感じです。もっと楽しむ事（楽しませてあげてほしい）してほしいと思いますが…行くところはいつも一緒、バスや電車にも乗せてあげたい!!事務所で計画されるお楽しみ会等にも参加させてあげたいと思います。日々低下していかれるので心配です。

・例えば、ろう者とは通訳でもプライベートでもつき合うが、盲ろう者の場合、プライベートで出かけるのと、介助で出かけるの区別が難しい。友人としてつき合いたい気持ちもあるが、一緒に買い物へ行くのは（たまにプライベートでも行く）、通訳介助と内容が殆ど同じで、気を遣って疲れる。しかし、気持ちとしては友人つき合いもしたいと思っている。

・ふうわにも関係していますが、盲ろう者にふうわの理解がむずかしい。一緒に行動もできないし…。盲ろう者の情報の不足、提供したいができない。ゆっくり寄り添うしかないと思いながらも、もどかしさを感じる。

・自分も手話通訳者でなければ、手話通訳の業務負担や疲労感の強さはわからなかったと思うので、仕方ないと思うが、通訳介助の業務の大変さ、精神的な疲労感、肉体的な疲労感が大きい業務である事を、盲ろう者に理解してほしい。

・長年かかわっていた盲ろう者がいつの間にか自分の専属と勘違いしてほかの盲ろう者の通訳介助をしたらすごく不満なようなことを言われた。「ずっと目をかけてやったのに」「恩をあだで返す」とかびっくりするようなことを言われた。

・発見が遅れた方でも良い方向へ向かうでしょうか？盲ろう者に「こうあってほしい。こうなってほしい」

と思う気持ちがあり、強く言ってしまったりするので「ありのままを受け入れよう」と思ったり、そうする自分に対しいつも自問自答している。

・嫌だなと思うことをたまに言われた時（例えば荷物を持つ）信頼関係が壊れるのではないかと断れないときがある。

・盲ろう者は、障害者であると共に、一人間、一社会人である。又未成年であっても、必ず社会人となりうる可能性大。ゆえに、一社会人としての認識不足の場合は極力お話して分かっていただけるようにサポートすることもあります。が、あくまでもサポーターとしての域をこえないようには自覚、自重しています。本当に難しい問題山積です。

・盲ろう者の受け止め方が間違っていて、訂正してもなかなか受け入れられない。他の手引き者の間違った情報をうのみにして、トラブルにつながったりすること。新しい情報がなかなか入りにくい。

・1985 年に盲ろう者との交流があり、手のひら書きをしたり、点字でやりとりをしていた時期があった。その女性は僕をかわいがってくれた。しかし、他の入所者との交流は少なく、思い込みをしてしまいがちの面があった。情報不足からくる不安、対人関係の希薄さなどを感じている。　２０１１年から盲ろう者へ接近手話をするようになり、盲ろう者通訳の難しさを常に感じている。スキルの問題もだが、どう盲ろう者が自分を受け入れながら自己実現できるよう援助するか考えてしまう。

・盲ろう者の家庭内の話を聞かされるのは嫌（内容が悪口）　・盲ろう者同士のうわさ話も困る。　・介助員の悪口。私もどこかで言われていると思う。お天気の話とか食べ物、趣味の話で楽しく会話したいと思っている。時には、悩みを打ち明けられた時は、聞き役に徹する。

・通訳として利用者の方に接している時は、友達としてではないことを伝えてもよく理解してもらえない。一緒に楽しむことも大切だと思うが、お茶をする仲間ではなく、利用者の方をその友人がいる場合は通訳に徹する仕事と考えていることも理解していただきたい。

・①他の通訳・介助員の悪口を言われる事 ②移動時、満員の乗り物の中で席を譲られても嫌そうな顔で断る時があり（機嫌の悪い時）困る ③通訳が通じてるのか反応がなくて困る

・社会常識からはずれた時、どんな風に話せば良いのか？指摘するのは簡単だけれど… 返答に困るような家庭内のプライベートな話をされるとイヤになる時がある。信頼されているのか？ただ単にはけ口になっているのか？

・ご夫婦で盲ろうの障害を負われています。外出時に白杖使用してほしいのですが、なかなか受け入れて頂けません。何年も言い続けてきましたが、最近は使用していただけるようになり嬉しく思います。きっかけに功を奏したのは同じ障害の方の白杖使用者からの説得と情報提供でした。・会員同士の陰口を聞かされることに閉口致します。

・盲ろう者の中に、私がよく通訳を担当する盲ろう者 B さんにライバル意識を持っている方がいます。私のことがよくわからない時には普通に受け入れてくれたのですが、B さんを担当することが多いとわかってからは「B さんの通訳をしている人だからイヤ」と言われたりして困りました。

・盲ろう者の通介者に対する不平、不満がわからず、聞くチャンスもない。いつもこれでいいのかと迷いながら通介をしている。

・盲ろう者の中には、通介者のプライバシーについて質問することを当然のように考えている人がいる。信頼関係ができていないうちから、また、仮にできたとしても、お互いのプライバシーに深く立ち入らないように配慮するという常識感覚がほしい。情報が少ない分、「常識感覚」が薄れてしまうのかもしれない。通介者を依頼する際の盲ろう者側の心構え的なものを、コーディネーター事務局から、盲ろう者へ伝えておいてほしい。

・情報の中から、自分で選択し、自分で考え行動できる盲ろう者は少数しかいないのではないか。私は会ったことがない。トップで活躍している盲ろう者と地方で、今まで機会を与えられることもなく、自分で考えたり、行動してこなかった盲ろう者の差の大きさ、深刻さを協会の方々はご存知でしょうか？
・社会的マナーを知らない（？）。知っていても平気でマナー違反をしている。　・通訳したことを納得した様子なのでこちらも理解したかと思っていると、あとで(忘れている事もある(？)) 聞いていないと言って立腹する。←いちいち、言い訳や伝え済みであることをもう一度通訳するのも嫌なので謝るのみ。
・近くに聴障害で視野狭窄の方がおられ、盲ろう者として登録すれば活動範囲が広がると思い、派遣事業について説明したが、ご本人が視野狭窄であることを受け入れられず、拒まれてしまう。　・通・介の業務終了時、盲ろう者から利用券を受け取るが、盲ろう者が金額の計算をされ、嫌味のようなことを言われる
・指示や命令と似たような行動をされると不愉快な思いをすることがあります。　・盲ろう者にチケットを渡す際に、上記のような注意喚起が必要と思われます。
・実際、通訳・介助活動する時、その時々色々な場面に出くわします。それを利用者の方と向き合う事、共に考える事が私には楽しいんです。出来るだけ強制せず、本人の気持ちを優先、気持ちよく過ごせる時間を持ちたいと心掛けています。どちらともいえないの回答はケースバイケースということです。すべてそうです。ただ、もっと経験する場がほしいです。××市の方で数回しました。利用者の方々にあなたといると安心すると言われたいです。
・適当な間隔で盲ろう者とかかわることのむずかしさを感じます。
・当事者とはできるだけ対等な関係で不便なところだけをサポートしようと考えているが、被害者（？）意識にとらわれている人も多く、逆に我々の方が人間として扱われていないのではないかと感じることもあり戸惑いも多い。盲ろう者の不自由さは充分に理解しているつもりなのでできることはしたいと考えているのだが。
・他人の悪口をお話ししている時、どのようにお答えするのが良いのか。むずかしいです。
・彼女と過ごす時間がとても楽しい時間もあり、また苦痛を感じる事もある。近すぎても良くないのかなぁと、最近感じる様になっております。友人であるべきなのか？アドバイザー的に接するべきなのか？悩んでいます。長い人生の中で経験された、試練、拘り、見えていた頃の学習、考え方は巨大な壁の様に思います。まだまだ学習不足、私自信の成長も必要です。
・解読のレベルの違いがかなりある時には当事者の方にも自覚をして欲しい。すべてが通訳・介助者の落度ではないと思うことがしばしばある。養成時にはやさしく育てると言われるが、その時だけでマスターが出来るものではない。もう少し幅を持った見方をして欲しいと思うこともある。手当を受ける以上当然だが、それを口に出されるのはどうかと思う。お互いの人間性を信じて活動が出来ることを望んでいます。
・まだまだ経験が浅いので、せめてお互いにいい関係、「ここは次回はこんな風に…」と、盲ろう者の方が言えるように、何かあったら通訳後にすぐに確認しあえるようにしています。（それぞれにコミュニケーションの方法が違う。しっくりくるタイミングになるまで。）盲ろう者の方が私達に気を遣わないでプチ反省会みたいな…ところで自分も次回の折には注意して行くようにしています。
・中途の障害を持つ方、また、社会参加の経験が少ない人に対してメンタルケアやエンパワメント力が必要と考えています。本人の尊重を十分に大切に、必要な時は必要な支援ができるように心掛けていきたいと思います。
・困っていた人（盲ろう者）は私のかかわる団体を抜けたので、その点では困惑することは少なくなった。

しかし、団体代表盲ろう者は、経験が少ないせいか親の年代の介助者の意見が時として「介入」と感じることがあるらしく、自分はその言いなりになっていると思うこともあるらしい。「ロボット会長」などと。そんなことは絶対なく、盲ろう者本人の意志を尊重しているので、もっと大人になってリーダーシップを発揮してもらいたい。

・盲ろう者が特定の通訳・介助員に頼りすぎていると思う。

・他の通訳・介助者の悪口を言われる。自分の事も他の通訳・介助者に言われているのでは？と思うと嫌になる。 ・1度でも手話を間違えるとものすごく怒られる(長い目で見てほしい） ・他の通訳・介助者と比べられる（A さんはできるのにあなたはできないと責められる） 通訳介助を辞めたくなる。腹が立つときはバカバカしくなる。通訳者も一人の人間です。

・講演通訳介助中に盲ろう者が私語をしゃべり始める癖のある人を介助した時、どのように注意すればよいか？

・通訳・介助員という役割を徹底しにくい。第3者とのコミュニケーションを通訳する時には私情を挟まず通訳し、1 対 1 で話すときには私情を入れた会話になる。また、友の会で活動する時は友人になる。その辺りのお互いの気持ちの切り替えが難しく感じる。でもそれが他の関係とは違って魅力に感じる部分でもある。

・盲ろう者の意見を聞いても「どちらでもいい。任せる」と言われるのは非常に困る。 ・行事などの進め方のアドバイスをして情報を提供しているつもりだが、そこから前に進まず困ることがある。

・ある盲ろう者は、「盲ろう者のルール・マナー」と「健聴者のルール・マナー」とは違う。だからお前の言うことはおかしい!!と、一般的ルール・マナーを守らない方がいる。いくら話しても聞いてくれない。また、その盲ろう者に介助者や事務所が遠慮してそのままにしている（自分の思うとおりにならないとすぐ怒るので…)。自分の情報が正確だ!!と他の人の話を聞かない。

・依頼を断ると理由を聞かれ、納得いただけないことが多く、プライベートな部分も詳細に説明しないといけない。・活動費の不足

・盲ろう者の方の指示に従い通訳・介助をしています。盲ろう者の方が生協の保険の契約書に記入する時、代筆を頼まれ、代筆のところに捺印するように言われました。私は指示に従いました。盲ろう者の方は通訳・介助員を信頼しているからかと思うのですが、このことが気になっていました。

・盲ろう者は自分の事を考えるのに精いっぱいの者が多く、団体活動や盲ろう者の全般に関わる事（例えば制度改革の事、会の活動全般のことなど）についての関心が極めてうすい。これらについての情報を与えても、理解できない場合があり、盲ろう者の自立と社会参加の道は遠い。

・自分の思い通りにしたい盲ろう者がいる。盲ろう者同士で意見が合わなくて、何か決める時時間がかかる時もある。お互いの相手の気持ちを尊重していければいいなぁと思います。

・どこまで関わるのか、関わり方に悩む時がある

・利用者本意ということ

・他の盲ろう者は誰を担当したのか気になる方がいます。守秘義務があるからと答えないと怒ってしまったり、通訳者への理解がない方がいるので困るときがあります。

・積極的に通訳介助に関わろうとしていますが、ある出来事をきっかけに距離を置くようになりました。（下記以外にもあるのですが‥）ガイドヘルパーとして視覚障害者の介助を行うときも、自分の友人と出かける時も行先の情報や交通について事前に下調べをし、当日迷わないように準備をするので、同様に、ある盲ろう者のガイドの時も準備し、盲ろう者にもそのことを伝えたところ、「余計なことをした」と言われたので、「確かに自分で調べたかった方に対し、出すぎたことをした」と反省し、謝り、以後

気をつけると伝えたのですが、その後その方の態度は都合の良いように使うだけ使い、ご自分が風邪が長引いて治らなかったのは、病院で点滴ができなかったからで、ガイドのせいだと言われました。私は介助員歴が若く、勉強段階で、至らないところが多かったと思いますが、理不尽な対応にがっかりしました。他の盲ろう者の方はそうではないとわかっていますが、利用者を選べないと思いますので、活動を躊躇してしまいます。

・障害ゆえなのか、性格なのかわからないが、人間性を受け入れられないところがある。

・あきらかに無理と思われるような時でも自分の考えを通そうとする時、どう対処すべきか困る事があります。性格なのでしょうね。

・一線を置く事の難しさ・一人の人との介助が年数が長くなると依頼をした時点で承諾が当たり前の様に思われ、断る事に、とても悪いことをしたと思います（罪悪感)。なかなか仕事としてわり切れないでいます。

・盲ろう者の方が希望するような説明が出来ない時が多々ありますが？１．通訳が困難な時（個人的な意見を求められるが、思った事を素直に話していいのかどうか判断に迷う）２．本人が望んでいる事がどの様な事なのか理解出来ず聞き返すが、答えてもらえないか気分を害される事がある。その様な時の対応がわかりません。３．盲ろうである事を甘えている場合があるのでは…。

・一般常識を理解していないこと。

・大会や総会でよく眠る。そのまま寝ていていいのか判断に困る。トントン肩はたたくけど。他の介助の方はそのままにしていると聞きましたが？

・盲ろう者の自発的な参加（友の会、その他の活動）をしてもらうには、どのような手だてが大切なのか毎回悩む。手話での発言を求めても、通訳者に発言を求めも、通訳者に発言を求めたりして、自分を出されない。移動（乗り物の乗降）の介助で怒られたり、突き飛ばしたりされ、介助の方法に問題があることを痛感した。

・一般的な社会ルールや盲ろう者同士の理解など、助言することがあります。しかし、通訳・介助員の１人に依存している盲ろう者の場合、理解してもらうのが難しい場合があります。また、盲ろう者は通訳（読み取り・状況説明など）内容が正しいのか確認することが出来ないので、登録後の通訳能力の研さんがとても重要だと思います。通訳者側の問題（倫理、技術）にもっと盲ろう者も気づいてほしいです。

・通訳・介助活動において、盲ろう者と対等ではなくて、上限官界と感じることが（もちろん通介が下、盲ろうが上）多い。それでよいのかと疑問に思う。

・通訳・介助員が、養成講習会で学ぶ内容を、盲ろう者本人が理解していない方もおり、おしゃべり相手としてかかわられる時がよくある。「通訳とは何か？」はその盲ろう者が「何を望んでいるのか？」に置き換える方が大切で、「盲ろう者にとって良い通訳・介助者とは？を考えることが多い。

・車に乗車する時、シートベルトをかけてあげなかった。自分でやってもらうことが本人を尊重することになると考える。でもやってあげるべきなのか迷います。

・階段を降りる時、横に転がっている缶が目の前（盲ろう者の）にあり、危険なので止めて状況通訳し、私（通訳者）が缶を取ろうとしたのですが、その盲ろうの方は「大丈夫だ！平気だ！」と怒っていました。歩いてみたらわかると言い張っていましたが、踏んでからは滑ってしまうし、明らかに転げ落ちてしまうという状況だったので、内緒にして缶を取り除きました。通訳としては矛盾していますが、命を守るためには仕方がないことだと思いつつ、難しいと思いました。

・盲ろう者から通訳者や盲ろう者の悪口を聞かされる。

・制度の中での派遣という事が分かってもらえない。個人的なわがままを通す。自分の思うようにならな

いと、個人攻撃をする等、社会通念上のルールが身についていない面で、介助者との関係を作りにくい人がいること。

・盲ろう者が必ず眠ってしまう。どんなに助言しても「眠ってない、眠ってない」という。通訳介助がいらない時は「眠ってしまうかもしれませんが、その時は通訳休んでもいいですよ」「眠っていても通訳は続けて下さい」等と言って下さいと言っても、「通訳者がへただから眠るんだ」と主張。盲ろう者への通訳のエチケット本があれば。

・盲ろう者が飲酒するのは自由ですが、酔っぱらうようなところ迄飲んで行くので、介助、コミュニケーションも大変です。自覚した上にして頂きたいと願っています。

・こちらもまだ勉強中で、手話が下手だから交代しろと言われ、手話通訳士の資格をもっていれば良いという考え方が盲ろう者の中にあり、自信がなくなり通訳がやれない事があった。・情報が足りないというが、盲ろう者自身からどんな情報がほしいか出してもらえず、いつも必要最小限になっている事が気になる。

・障害当事者の自己主張が強すぎる。わりに努力が足りない。

・いつもは、相手が弱視で、接近手話で伝えています。その他の人はもう見えないぐらいのレベルで、どう接したらいいのか迷います。本人は見えなくてじーっといているのは申し訳ないので、気を使って話してあげたりしています。

・派遣終わったら、盲ろう者に勝手で買物に行きたいと言ってます

・個人的なつながりや関わりが濃くなる程、大きな要望や期待が寄せられ、かなりしんどかった。盲ろう者の個性がかなり強く、支援者が定着せず、減る一方で、特定の人への負担が増えてしまった。

・個別性を考慮したサポートは難しいです。

・ある NPO を支援する盲ろう者の通訳・介助者、ガイドヘルパーが次第にやめていったため、現在は私とろう者が自分の持ち場で手伝っています。数年前までは友の会などに出席して活動していたのが、今は自分のカラにとじこもってなかなか出ていかない。頑張って 2 年前くらいには点字を修得したのですが、今はやりたくない様子です。気長につき合うしかないと思っています。

・対人関係が希薄。それなのに遊びや買物の依頼が多い。人と人とのつながりを築くための通訳・介助だと思うが、あまりにも個人的に楽しむことばかりで、支援する気持ちが薄らぐ。それがとてもいやな気分になり、テンションが下がる。かと言って、本人には言えず、不満がたまる一方だ。・手塩をかけて通訳・介助者を育てようとする気持ちが伝わらない。・通訳・介助者の悪口ばかり聞かされ、うんざりする。・少しでも否定すると、爆発したように怒鳴る、手に負えない盲ろう者もいる。

・慣れすぎて逆にコミュニケーションを省きすぎ、通じなかったり、互いに誤解することがある。・盲ろう者に生きがいがない時に、非盲ろう者として強い参考意見が述べられない。

・通訳がうまく伝わっていないため勘違い、又は思い込みをされている時の修正に困ることがある。・その場で、本人（盲ろう者）から了解をもらっていても、後で支援者の口から全く違う本人の気持ちを聞かされることがある。この様な時、本人に確認をしないといけない内容の時は変に言葉を選んでしまう。

・通訳・介助者を厳しく比較する言葉：資格を取った当初、よくサポートさせていただいてたある盲ろう者からの言葉。その人には何年もサポートし、一緒に活動している介助者(A さん)がいる。長時間の通訳・介助の時は、その A さんと私 2 人で担当することが多かった。その時、A さんと私を比較し、その言い方が私にはつらく傷ついた。（通訳技術が未熟でご希望に添えなかったのわかるが…）。盲ろう者と通訳者も「相性」というのがあるかも。

・電車の中、待ち時間に人のうわさ話ばかり話してこられるのは困ります。

・講演会などで話を最後まで聞かないで話している人に関して他のことに興味を持って質問にくる。特に個人的な事を聞きたがる。終わってから本人に直接聞いてみるように話しますが、それができないようです。
・今まで困ったことはないが、その人の分かる範囲、分かることば（ぴったりくることば)、楽しいと思うこと、いやだと思うことを早くつかみたいと思うので、その人の情報がほしい。また家族がかかわっている時はその人達のことも理解する必要を強く感じています。
・盲ろう者から言われ、又は態度で傷ついたり、してほしくない事等、人にはなかなか話せず、つらいなと思うことはあります。
・盲ろう者が約束の時間より 10 分 20 分遅れてくる。何かあったのか不安になる。
・通訳・介助者の時と、それ以外の時で盲ろう者に接する態度（接し方）が異なる（友人と介助者）と思うので、それを理解してもらっているか不安です。
・通訳介助活動を始めたばかりだが、始めたころはやりがいを感じていた。回数を重ねるうちに、接し方の難しさに触れ、今では業務（通訳・介助）が無事に終われば…と考えるようになった。私は経験がないが、ある盲ろう者がとても怒って感情的になっている様子を見た時、怖くなってしまった。
・相手によって対応すべき内容が違うので、はじめての人の通介をする時、戸惑う。事前にどれだけ聞いておけば良いのかききすぎるのも失礼なのか難しい。
・どこまでサポートするべきなのか、迷うときがある。考え方が食い違う時、自分の考えを言うべきか聞いているだけか迷う。いつも迷いながらサポートしている。みんな同じだと思う。
・中年層（30 代～40 代）の盲ろう者にも社会的常識を身につけていない人がいる。その人たちにわかるように説明することに困難を感じる。
・社会的に問題のある行動を指摘した時に、盲ろう者の受け入れてくれない態度。あまりにも盲ろう者の代弁をしすぎる通訳者とのギャップ
・障害の進行度と本人の認識の状況

③盲ろう者主体

・年に数回しか活動していないのですが、定例会など通訳者主導になりがちなところが感じられる場面がある。盲ろう者の主体性を尊重するとは、ということについて学んでいきたい。
・主体はあくまでも盲ろう者本人で、私たちは情報保障をすることが大切だと思います。なかなかすべてそういかないことは悩むところです。保護者ではなく、あくまでも通訳・介助であることを基本に考えたいと思います。距離のとり方が難しいと思うことがあります。
・盲ろう者の中には「盲ろう者主体」を「盲ろう者の思うまま」と勘違いされている方もいます。おそらく、この派遣事業の趣旨が盲ろう者と通訳・介助員の双方に共通理解されないまま、スタートしたからではないかと思われます。勘違いは支援者側から言っても受け入れられません。自分のお気に入りの通訳・介助員からの意見のみを信じる傾向にあり、広く意見を求めたりせずに信じてしまう場面をよく目にします。自分たちの意に沿わないと、悪口を言い排除し、それをすべて「盲ろう者に対して理解がない人間」として正当化してしまうため、通訳・介助員は増々何も言えない状態になってしまっています。通訳・介助員として守秘義務もあり、それを悩んでも解決の道も見つからず、やめてしまう方もいるのです。通訳・介助員としてどのような支援が必要なのか十分議論されず、理想的な支援も示されず現場に行き、すべてがケースバイケースで行われるため、犠牲的精神の通訳・介助員ががんばる状況になっています。盲ろう者の情報障害は重く、その支援には専門技術が必要なのです。通訳技術だけでは限界

ではないでしょうか。支援者としてきちんと理論を学ぶ場がほしいと願っています。

・手話通訳者としての活動から入ったので、「通訳」の部分は理解できるが、「介助者」の活動の仕方、養成講座では「盲ろう者の主体性」について触れられ、又、特殊なコミュニケーション手段、介助の仕方等について述べられているが、介助者の担う責務、あるいは解除の中身が個々の盲ろう者に対応してほしいという説明で、それも当然のことだと理解しているが、「介助」についての説明がない。ご本人の主体性を尊重するのはもちろんのことだが、本当にそのやり方がご本人にとってプラスなのか迷うことがある。宿泊事業では、個別支援計画を作成して行っていたが、実際の派遣場所では、同様に行っているのか、行っているとしたら何らかの支援の必要な方がいるとしたら、計画全体はオープンにはできないまでも、方向性を示していただけると、介助に結び付けられると思うことはあります。

・盲ろう者によって、持っている障害、家庭環境、考え方、介助者に望んでいる事が違うので難しい。まず、盲ろう者自身がどうしたいのか、何を望んでいるかを介助者に伝えて欲しい。

・どこまで個人的なことに踏み込んで良いのか戸惑うことがあります。盲ろう者の主体性を尊重したいけれど、積極性に欠ける傾向にあるような気がします。

・盲ろう者自身が判断、決断してほしいことまで相談されて困惑する時がありました。　・相手の感情、言いにくいことをどこまで当事者に伝えても良いのか？「空気を読む」周りの雰囲気。目が見えて聞こえて判断できる部分をどこまで話してもよいのか？悩みました。

・盲ろう者本人のことは優先で尊重されるので介助員が先んじて行動する必要ではないと思います。盲ろう者の希望をありのままに受けてサポートした方が良いと思います。何かあったら（講演会、コミュニケーション他）盲ろう者に話題を報告する必要がある。

④盲ろう＋他の障害がある場合

・通訳も大変ですが、身体が不自由がある方で通訳と介助の両方がある場合、身体もサポートが必要なので移動の時など通訳する以上に支援が必要な場合がある。

・排泄介助も必要な盲ろう児を担当することが多く、てんかん発作があったりするので、支えることが多いため、こちらの体力を考えると、年齢的にいつまでやれるものか。

・知的障害もある盲ろう者について、事前にはっきりとした通知もなく、接し方がわからず困惑する。知的障害について知識のない者に通訳・介助は難しいと思う。

・盲ろうの他に、妄想も多い方の通訳介助の仕事はいろいろな場面での判断が難しい。・家族が障がいに対して理解がない。・交通が不便な地なので冬期の運転が心配。・盲ろうになってからずっと家に閉じこもっていた方なので、社会経験がなく、語彙も少なくコミュニケーションが難しい。

⑤盲ろう者の高齢化

・盲ろう者が高齢になってきているので、思い込みや認知の問題が多々増えてきています。聞こえない、みえない、コミュニケーションが取れない時があります。そんな時にアドバイザーがいてくださるとありがたいと思います。

・高齢になり忘れる事が多く、前に通訳したことが分からなくて話をもとにもどしたりして理解してもらったり、混乱するので必要でないところははぶいたりしています。

・対象者が高齢になり、通訳介助→介護になってきている。大変な方もいるので、こちらも年をとり、なかなか思うとおりにできないときもあり、「リタイアを考える」時期を考えることが大切かなあとおもう。手引きのとき腕にぶら下がる方もいる。体を密着させる方もいるなかなか止めて！とは言いずらい。

・対象者が高齢になってきて一人で支えるのが不安な時があるので、その人によって二人対応ということも考えて頂ければと思った場面があった。
・高齢者の盲ろう者は、障害だけでなく、認知や他の身体症状もあり、通訳や介助をする上で、専門知識や技術が、より必要である。個別対応する上で、盲ろう者の場合、相性など特定の人に限定される。手話通訳なら不特定多数の人と対応できる。
・盲ろうという障害＋８０歳近い年齢の方の通訳・介助は車いすでの介助になり、しかも泊りでの時１人ではあまりにも大変です。食事の介助をして先に食べさせてから「少し待って下さい」と急いで自分の食事をしようとしても、本人から「もう部屋で休みたい」と言われ、御飯も食べられません。一晩中一時間ごとにトイレへつれて行って、寝ることもできない。転倒事故が起きてはたいへんだし…。介助者を二人にしてもらうなど考えていただきたい。
・高齢になると、認知症状が出ますが、気のすむまで話を聞いてあげたい。時間の制約が恨めしい。

⑥盲ろう児（者）・家族との関わり

・先天性盲ろう児とその家族への支援が必要である。行動が限られる、交流が限られているため、地域での居場所が必要である。行政も含め、先天性盲ろう児・者への知識を啓発することが必要である。
・通訳・介助者同士で食事会するな。指点字と音声通訳は資格者に対して平常的、平均に仕事が来るように希望する。会計上、支、出、を明確にすること。私はふうわで活動したい。もう児に光と音のすばらしさを伝えたい。もう児のためにつくしたいと思う。遊び相手として。
・ご家族の問題をご家族に伝えられない。でも、繰り返し聞くのはつらい。
・盲ろう者への支援は、どうしても本人だけでなく、家族等の影響も受けやすい。本人にとって良い支援を行おうと思っても、家族に反対されたりする事がある。以前、ある盲ろう者のお母さんと話すことがあって、今の話をするとまだ友の会がなかった頃の苦労話をされました。それを聞いていて、盲ろう者支援は「家族会」的支配がまだ抜けていない部分があるんあなぁと感じることがあります。（とくに地方の友の会では）手話でも要約筆記でも、通訳者の会がありますが、盲ろう者向け通訳・介助員にはそういった会がありません。どうしても家族会的な圧力を感じてしまいます。
・家族から虐待を受けている盲ろう者がいます。法律改正に伴い、救ってあげたいのですが、ご本人が仕方ないとあきらめているのが悲しい。残念です。
・盲ろう者（男性）で、奥様も耳が聞こえない方で２人暮らし、盲ろう者は家から出かけられることがたびたびありますが、奥様は１日中家にみえることが多いようです。用事で盲ろう者の方の家にうかがいましたら、盲ろうの方より奥様から言われることが多く、又、あまり個人的な内容で、私が中に入って、例えば電話をかけて申込み方法を聞いたりしても良いのか、相談されることもあって返事に困り「２人で相談して下さい」と言いましたが、通訳介助の立場で知りたくない部分まで踏み込むことになってしまうことがあるのが困る。
・盲ろう児の通訳・介助の際、足蹴りをされ痛い思いをしたが、子供なので必要以上に言ってもわからず（理解不可）とてもつらい思いをした。
・重複障害で（全盲、右耳全聴「介助活動の中に点字勉強を入れての活動をしておりますが、本人のみで家族の応援がなく、最近では手書き文字に切り替えての対応をしております。又、音声での情報を伝えております。今後のことを考えると、どうしたら良いかと悩んでしまいます。１人での行動が無理の為に、介助の中では本人の希望を聞いて少しでも楽しい時間になるように無理なく進めております。
・お子さんの通訳・介助の時、事前に親からの注意点など細かく連絡を頂けるとありがたいです。一度だ

け男性に手をすごく触られちょっと嫌でした。

・家族（親、妻、娘）が通訳介助をしている。盲ろう者の場合、他の盲ろう者とちがい、とても気を使うし、コミュニケーション方法が違う時があり、入り込めないので依頼されたくない。家族が口出しする時がある。

・日常の通訳介助の他にも、親子関係、夫婦関係のような悩みをお持ちで、介入困難な場面は多々あります。が、話を聞くことが度々くり返されると、、どのように対応してあげたらよいのだろうと思います。

・盲ろう者の方と家族の方は、問２４のどのような意識をもっていてほしいと感じるのか知りたいと思いました。

・盲ろう者の障害者になった段階で、盲ろう者自身の判断すべき環境は違ってくると思います。情報の入手の少ない盲ろう者にとって家族が適正な判断をし、盲ろう者に伝えなければならないと思います。個人個人、ひとりひとり違うのが盲ろう者の難しさだと思います。

⑦セクシャルハラスメント

・プライベートでたまたま道でお会いし、物にぶつかり困っていたので話しかけました。その方とは交流会か何かで数年前にお会いしただけで全くあいさつ以外の会話はしたことがなかったのですが覚えて下さっていて、どこまで歩けばよいか手伝おうとしたら、歩いている最中に突然、独身か聞かれ、そうだと答えると手をつなごうと言われ、拒否しました。お茶したいと仰るためコーヒー屋に入ったら、つき合っている人はいるかきかれました。その人の通訳介助経験がないため何ともいえませんが、仕事でもプライベートでも、もし盲ろう者から性的アピールをされたらどうしたらいいでしょう。その方と私は同世代です。特にその後、私もあえてコンタクトをとってないため何も連絡はなく、困ってはおりません。ただ、連絡先をコーヒー屋で聞かれ、断るのが気の毒で教えたくないのに教えてしまいました。

・時間を守ってもらえない。ボランティアでしてくれる人もいるのに…と言われたりする。セクハラ発言を大声でされたりした。

・本人(盲ろう者）は、特に問題にしていないようですが、体をさわったり、手を両手で握ってきたりする場合がある。悪気はないのは理解できるが、対処法に困る時があります。

・通訳・介助中(特に移動中)、体に触れる盲ろう者がいる。その場ですぐ言うべきか、報告に挙げるべきか迷う。盲ろう者も研修を積んでほしい。侮辱されているような感じを受け、その人の通訳・介助はしたくなくなる。

・過去に、メールアドレスを教えたために、1日中メールが来た。仕事を断ると自殺するとか、殺すとか、脅迫メール。ノイローゼになり、何回もメールアドレスを変えた。ストーカー　家へも来てしつこい。その弱視ろう者は元やくざとわかって、友人（足を洗ったやくざ、ろう者）が助けてくれた。 各友の会事務所から依頼を受け、通訳介助の仕事を引き受け頑張ってやっています。トラブル防止のため。 不良・やくざの弱視ろう者から暴力を困ります。殴り返したいけど、我慢しました。追放してほしい。

・触手話時セクハラを受けた経験あり。派遣センターに伝え、以後、その方の担当は外していただいている。

・派遣以外の「友人として」の依頼が派遣の5倍はある。もちろん内容的に派遣できないものか、お金がかかるため盲ろう者が 2 人分負担できないから、など理由もあると思う。しかし、「派遣」で行政にも報告されているのは「氷山の一角」でしかないことを、国にも自治体にも理解してほしい。また盲ろう者のパワハラやセクハラも残念ながら続いています。

・異性介助時に、常識外れ（と言いたくなる）性的な話をされるのははっきり言って困惑するし、通訳・

介助員が離れていく原因としてあると思われるが、表に出せないし、出てきていないと思われること。
・セクハラに近いことをされたり、チケットを時間通りもらえなかったり（多かったり少なかったり）、といった問題があっても解決するのに精神的な負担が少なくないので、もうその人の通訳をやめてしまおうかなと思うこともあった。
・私自身が 60 才を過ぎているせいなのか、移動介助の時に手をつないだり、腕を組んだりされることに抵抗がないのですが、盲ろう者の為に良くないのか‥と思うようになってきました（異性の盲ろう者）。技術面では話し言葉の聞きだめが大変になってきて限界を感じる日々です。
・初級・中級の講座を受け、盲ろう者通訳・介助員の登録をしていますが、活動はしていない状態です。講座の中の短い実習時間の中で、音声による通訳をしている際に、70 代の男性盲ろう者に、その間、ずっと太ももを触れられていたことがとてもショックでした。初めは、自分の体が近づきすぎているのかと思い、体を少し話しましたが、それでもなお、相手の手が伸びてきました。（通訳を男性の方に交代した時はご自分の足の位置に移動しました）知人（女性）の話ですが、男性盲ろう者に、どんな体型の通訳者か知るために、旨とお尻を触られたと聞き驚きました。触って相手を確認したい気持ちはわかるところもありますが、困りました。この男性盲ろう者が同一人物かどうかはわかりません。
・男性の（年配の）方を介助するに当たって、肌の接触等の度合が「介助」の枠から越えているのではないかと感じたことがある。小少々不快感を覚え、エスカレートした際には男性介助員に担当を代わってもらったが…。その後は女性の介助を希望したいと思った。
・個別の通訳介助活動の経験はないが、交流会などで通訳が入ることがある。男性の盲ろう者の中にはやたら触ってくる人がいるので、困ることがある。確認のためであるようだが、必要以上に触られるのは好きではない。まだ通訳をすることに不安を感じることがある。

⑧盲ろう者の学ぶ場

・盲ろう者たちも、通訳・介助活動をしてもらう立場から意見を聞きたい。又、盲ろう者も通訳・介助活動の内容を学ぶべきと思います。
・派遣制度の充実とともに、盲ろう当事者としてのマナー学習の場が必要と感じています。・登録者に対して、盲ろうという立場で講師を担当できる人材が少なすぎること。

盲ろう者も社会的なマナーや、一般常識的な道徳の勉強などの場をつくってさしあげる必要があると考えています。皆が皆ではないが、知識をもっていない人もおられますので、講習会など開いていただけると助かります。

（２）移動介助

①移動介助

・外出時に、たまに白杖使用の盲ろう者と会いますが、その時つい手を貸してあげる（一人で歩いているので）。このように安易に手を貸してあげてもよいものだろうか？本人はとても感謝していますが。
・歩行時、右手で介助し、通訳時右手で触手話をすることが多いので、右手、又は手の負担がとてもある。通訳をする時の手の負担はしかたないと思うが、介助する時は、盲ろう者が通訳・介助者の肩や腕をつかむ方法でやり、通訳・介助員が盲ろう者の手を引いて、ひじを力を入れてまげながら引いて誘導する介助の方法を少なくして欲しい。記念パーティーの参加費や宿泊費は盲ろう者が通訳の分も 2 倍払い 2 倍の負担になっている。又は、通訳・介助員がボランティアで参加費や宿泊費を出費する時がある。行

政はそういう問題にも目を向けて解決して欲しい。（盲ろう者が 2 倍負担する事について、又は通訳・介助員が自己負担する事について）。

・移動中経路の把握の前準備に時間がかかる。

・介助については盲ろう者の身体の安全が第一に守るべきなので、スキルがないと不安である。

・ポストへ行く近道などで横断歩道を渡らない。

・一応、自力で移動できる方（弱視）ですが、「白杖を忘れる」ことが度々あります。通訳介助の時には、私の腕につかまってもらい移動するので、やはり白杖は持ってきてほしいと思います。が、私からこの希望を伝えたことはありません。

・まだ経験が浅いので盲ろう者の自宅から移動の際に介助方法が身についていない。盲ろう者に希望を聞いても問題ないと回答。しかし、自分では自信がないどころか、ハラハラする場面もあり、盲ろう者が気づいていないわけではない。どんな介助をすべきか。盲ろう者の要望を聞けるにはどのようにすべきか困っている。

・困ってはいませんが、方向オンチなので、相手の家に行き、そこから目的地に行くのに、行けるのか？不安があるので、依頼があってもおことわりする事が多いです。

・移動の時、店頭等しないか心配です。（高齢者、足の弱い方）自分の不注意になると考えます。

・室内での触手話通訳はいいけれど、ガイドとなると自分も聴覚障害なので、車などの音に気づかないこともあり、ガイドすることは自分も不安である。

・中山間部への送迎があり、雪も少なくない地域なので、冬場の依頼は不安である（男性に代わってもらう）。

・外出時の移動：エレベーターなどない時の階段、乗り物など不安（移動に不慣れな人や高齢の盲ろう者）

・移動に車使用が認められていないこと（1 時間 1 本の交通手段を使用すると、1 日 8 時間では、時間が超過となる）・移動介助の方法を当事者が知らない（一緒に勉強していけると良い）。

・郡部なので場所的に移動手段が少ないので、自分の車に乗せてくれと頼まれる事があります。私は自分の運転に自信がないので、もし事故にでもと思うと不安です。現地集合であるべきと考えますが。

・私達の地域では、交通が不便で公共交通機関の利用だけでは移動は不可能です。そのため、通訳・介助に、自家用車の利用が欠かせないのですが、事故等の保障が不鮮明で、不安であり、私自身は車で同乗移動はしていません。今後、通訳・介助者が万が一の時に安心できるサポートが必要と考えます。又、盲ろう者に関わり通訳介助をする時間より、ボランティアで、無償で動くことの方が多く、1 日数時間交代もなく、通訳をすることも多く、過酷な状況です。

・車での移動（配車）は危険がともなう。保障はしっかり付けてほしい（物損等も含め）。

・介助の部分で、自車に盲ろう者を乗せることになるが、家族が他の人を乗せることを嫌がることや、もし事故を起こしたらなど、考えると面倒と思ってしまう。移動手段、交通手段が限られる人の場合は、介助者も考えてしまい、積極的に引き受けない要因になっている。

・移動に関する負担が大きい。（自家用車に同乗させる時の責任について特に負担を感じる）・長時間の交換がない時のつかれが大きい。

＜2 年程前までの多くの活動をしていた頃の話＞車での移動支援が多い地域なので、どうしても自家用車で介助の責任おいての運転を強いられる。保障もほとんどない中で、とてもリスクあり。サポートの範囲を超えるリクエストがあり、なかなか断りきれないことがあった（昼をはさんでの介助で、行きたい店の指定あり、時給を超えるランチ料金。買い物依頼、予想以上の大荷物、店回り、身体への負担有）。事例検討する場がない。相談できない。

（３）通訳・介助員

①通訳・介助員の質

・派遣事業に基づいて、通訳・介助員が動くが、質の保障が各通訳・介助員でバラバラ。質の均一化と盲ろう者の成長を見守れるだけの力量がいると思う。それが、手話通訳者みたいな資格を生み出すことになるのでは。

・盲ろう者自身が得られる情報の少なさ、また、不便の多さにより生まれる通訳・介助員への信頼。この複合的問題の中、情報操作とも思える通訳活動を行った通訳者と共に団体を去っていく盲ろう者がいます。私たち通訳・介助員が持つべきモラル、１人で盲ろう者を抱え込むのではなく、みんなで支え合う意識、そういうものも技術と共に伝えていけたら…と思います。

・複数の盲ろう者や通訳者が集まる場で、目に余る通訳者が最近増えているように感じる。同じ通訳・介助者の立場として注意することもあるが、もっと派遣担当や友の会の人がそういう場でよく確認（観察）して、注意するなり、教育するなりしてほしい。同じぐらいの経験の人からも同な意見をよく聞く、盲ろう者の不利益につながるので、養成しっぱなし。派遣しっぱなしにならないようにお願いしたい。

・特定の通訳・介助員が「この盲ろう者は私のモノ」的な態度で、その人（盲ろう者）に話しかけようとすると手を持っていってしまう。あくまでどうするかの判断は盲ろう者本人がすべきことであり、通訳・介助員が盲ろう者の意見を聞かずに行動するのはいかがなものかと思う。

・ろう者だから即登録 OK の時があったと思う。その人たちを全国盲ろう者協会主催「盲ろう者向け通訳・介助員養成研修会」を受けてほしい。本当にモラル、プライバシー、介助移動などなっていないのが多く、盲ろう者は我慢している。もっと厳しくして欲しい。

・情報障害者と訴えている様に、誰かが知らせない限り、（点字情報あるも）得られずに過ごされているので知識不足で、通訳者が時に上から目線で伝えている場面を見たりすると、自身はどうなのか？見えない上に聞こえないという、他者のイメージした、考えた、思った、時には私情が入った情報で盲ろう者はイメージを作る事になり、その事で誤解等が生じる、説明する程ふくらんでしまいます。人が人の事を思いやる事は、人それぞれ違いがあるので正解は難しいです。ただ、盲ろう者の支援者が増える事を望んでいます。

②通訳技術

・音声通訳の際、相手が怒っている場合や、盲ろう者に対して失言を言った場合など、そのまま言葉、感情を相手の前でストレートに音声通訳するのが難しいと感じることがあります。通訳をしている盲ろう者のほうの性格を考慮し、ストレートに伝えたほうが良い方や、その場で失言を言われることでいやな思いをしたくないと考える方など、盲ろう者本人に合わせて通訳を考える必要があると思います。

・ろう者の手話通訳が身にしみこんでいて、盲ろう者通訳に切り替えが難しいことがあります。まだ自分自身理解できていないことが原因だと思いますが、講習等では色んな方がいるため深い話までは持っていけない現状です。

・指文字と手話とを使う時に、相手に、訪ねて使った方がいいのか戸惑う時がある。子供が、目を酷使するので、将来眼の病気。親も難聴なので、一緒に子供も体験させたいと思うけど、皆がやらないと１人では参加しにくいので、やりやすい環境を望む。手話をつかないのですぐ忘れる。話したいと思っても、手話で話せないから、コミュニケーションが取れません。

・聴覚障害者への手話通訳活動や平素の交流が長く続いているので、手話通訳の時、手話範囲が広くなり

すぎたり表情が大きくなりすぎて、先輩から注意を受けることが多くて努力しているところですが、なかなか身につきにくく困っています。点字は受講終了直後から数年間は…(終)
・手話が覚えられず困ってます。毎日の練習、努力が必要と思ってますが、自分からにげているんですね。
・通訳は本当にむずかしいです。自分の仕事のかたてまに行うようなことではないと思っています。
・技術・経験不足が原因と思いますが、読み取り間違いをすることがよくあります。
・音声通訳の時、静かな所で、ご本人の声が大きい時、なかなか注意できない。
・通訳のレベルが低いため、うまく伝えられないので、いつも申し訳なく思っている。
・通訳技術が足りていないこと
・盲ろう者さん同士でけんか状態になり、相手の意見を伝えるとさらに激しくなることがわかっているのに、伝えるべきか悩むことがある。
・日常に溢れる音声情報や通訳場面での情報を聞こえたものすべて通訳しても（全てはなかなかできませんが）盲ろう者はあまりの情報の多さに混乱するばかりだと思います。伝わりません。取捨選択する技術（ポイントを伝える）は、非常に難しいです。対象者にとって欲しい情報、必要な情報を正確に伝えられたのかと悩みます。
・通訳でも会議等で盲ろう者同士が感情的になって過熱状態になったときの通訳のスピード、話の内容、相手の様子、声の強弱等の状況説明を正確に伝えていかないと、内容が伝わらないことによりさらに話がこじれたりする場合があります。通訳者の技量や司会者にルールを持った発言をしてもらいたいときがよくありますが、通訳者がなかなか、スピード等、発言のルールについて口を出す雰囲気ができないときに苦労します。
・あまり触手話を使う機会がないので、だんだんできなくなってきてしまいました。使う機会が減ると忘れてしまうので、心配です。
・移動介助の時は手書き文字でのコミュニケーションだが、私の手書き文字は分かりにくい様だ。盲ろう者に負担をかけないようにと思うが、一生懸命に読もうとして下さっているので、本当に申し訳なく思う。
・音声通訳の時、多少聞こえる盲ろう者の場合、どの程度まで通訳すれば良いのか、又、マイクの声が聞こえる場合、盲ろう者から「今は聞こえている」とか、声を出して言ってもらえると良い。男の人の介助につく場合、男性トイレに入りにくい時がある。
・日常に使っている言葉（例えば、四字熟語とか、時間（日にち薬）が経てば…とか、軽く使っている言葉をどう説明するか。、まだまだ未熟のため、手話をどの意味に使っていいか（同じ手話で手の動きをどうあらわすのか）判断がつきにくい。例えば、これ好き？良かった？幸せ？会話の時にすぐ手が動かない。後で、あっこうすれば良かったかな？と反省。
・自分自身の技術不足
・通訳中の状況説明のタイミングがうまくつかめない
・触手話や点字、手のひら書きなども通用しない盲ろう者とコミュニケーションをスムーズにとるための方法を身につけたい。時間をかけて表情や癖を読み取るしかないのか。どんなことを考えているのか話せたらもっと楽しく生活できるのにと思う。
・他の団体との会合にて、他団体さんは話す口調が早くなり、情報があげづらくなる。
・盲ろう者のニーズはここに違うが、ここが要望するニーズを知ることが難しい。例えば、研修会では見えるもの聞こえる事すべてを状況提供するように学んだが、状況説明が多すぎても疲れるとの声も聞く。個々に合う通介ができてるか？いつもまよう。盲ろう者に序も遠慮があるのか、通介者に対する要望、

要求があまり出てこない。
・専門的（医学など）な用語の時、手話通訳ができない時があるので、その時はどのように対応したらいいのか考える時があります。
・まだ初心者で深くかかわっていませんが、可能なら手話、点字、ブリスタ＝PC 等、技を磨きたいです。・介助を必要としている方の登録が少ない。何とか沢山の方々に登録して社会に出てほしいところです。・視覚、ろう者、盲ろう者、各団体の横のつながりが薄いように感じます。まだ知らないことかもしれませんが、みんな手をつなぎあっては…と思うことがあります。
・講演に参加した時、盲ろう者が講師への質問を全体に向けて話すことがある。その時の盲ろう者の手話表現を誰が読み取るのがベストか今でもわからない。現場にいる全体向けの手話通訳者がそのまま読み取り、もし盲ろう者の表現が早すぎる時などは盲ろう者通訳者が盲ろうへ伝えるのが自然かと思ってます。
・一度、病院の診察に家族の方と一緒に同行したが、家族の方に「ここは通訳しないでください」と言われたことがある。家族の方は「本当のところ余命はどれくらいですか？」と医師に聞いていた。通訳の立場としては、目と耳の代わりなので、すべて通訳しなくてはいけないが、ご家族の気持ちもわかる。とても複雑でした。
・手話や点字の取得が不十分な為コミュニケーションをうまくはかれない。
・通訳・介助活動の経験は少ないので、あまり困った出来事にはあっていませんが、会議・講習会等は話す側は通訳しやすいように司会が進行します。順番に指名してくれるので助かります。　大変と思うのは、交流会のような懇親会で、皆口々に好きなことを言いだし、１つの話題に集中したかと思うとすぐ違う話へ変わっていきます。通訳している間に別の話に移り、いったい何の話だったのか分からなくなりますね。「ゆっくり話して、順番に」と言っても、会話が弾んでしまう事もあって、こういう時の通訳は難しいなと思った時がありました（見ていて）。
・現状の様子、状態を伝えるのが本人自身が情報不足のために、現状のまま通訳しても本人に伝わらない（意味が）ことが起きる。通訳者自身が意味を深く考え理解して伝えることが非常に大切になってくることがある。
・手話通訳活動を行っている為、「手話、音声、手書き」であればなんとかコミュニケーションが図れる。しかし、点字が全く出来ない為もどかしい思いをする。なので盲ベース（点字/指点字）の方の通訳は出来ない。（困っていることではありますが、自分の学びで乗り越えられる事と分かっています。しかし、手話通訳活動で時間が取れない状況。）
・ブリスタや音声通訳しかやっていない。会議などで発言が激しくなった時、どのように早く簡潔に通訳してよいか困ってしまう。
・情報量に個人差があるので、通訳・介助中にどの程度の情報を提供すればよいのか戸惑うことがある。　・盲ろう者との関わり方が、自分のやり方で良いのか確信が持てない。他の通訳・介助者のかかわり方の様子を見て学ばせてもらっているが、自分には受け入れられない関わり方をされている人もいる。盲ろう者の望む通訳・介助とは・・？と考える事が多い。

③通訳・介助時の負担・不安

・自宅からの移動（迎え、送り）を含めると、通訳・介助の時間が長く、体力に自信のないために断ることがあります。行きのみ、帰りのみなど、分担できると引き受けやすくなると思います。
・耳が遠くなり、講演通訳がうまくできないことが増えてきた。

・会議の通訳で、珍しい名字の方など聞き取れないことがある。・通訳・介助者や盲ろう者は年上が多く、話題に入れないことがある。
・手話等、他の通訳の業務と比べて事前情報が少ないように思う。盲ろう者側の負担（事前情報を提供する手間など）が少ないのはメリットだと思うが、初対面の人、慣れない場に行くのは精神的にストレスに感じることがある。
・活動内容の他に、次々にあっちの用事、こっちの用事とお構いなしに頼まれる。出来る範囲で手助けはするが、こちらの都合が合わない時は、次回に回してもらうように言うことにしている。
・慣れてきて、要求は増え、行動量は増えるのに、時給は年々減るのでやる気がなくなる。だから、少し時間延長してもと思うより、打ち切る。
・利用者さんから直接依頼を受ける際、なるべく事前情報（行き先 etc.）を得るようにするが、通介の準備が充分にできないことがある。地域でガイドヘルパー業務をしているが、こちらは事前のスケジュールで自ら下調べ（経路、行き先の様子、トイレ、食事の場など）をして臨んでいる。盲ろう者の通介の場合は、地域が広いので、当日初めて言われた場所へ行くことが多く、スタート地点すら迷うことがある。又、そこへ行くまで 2 時間近くつぶすなど、気持ちだけでは続けられないような状況も実在している。
・盲ろう者は本当にさまざまです。相手の方により、（同じ方でも体調によっては）対応は 180°変わることがあります。柔軟に自分の形を変えて、個人個人の盲ろう者にそってゆくのが私たちの仕事だと（その人使用の目と耳になる）思っています。ただ、とても力が必要です。体力の経済力も考えてた以上に必要でした。（この仕事で生活はできない）ドタキャン、変更もあるし、時給もいくらになるかわかりません。
・体力的に追いつかない。ケイワンに悩む。（B１）接する時間を少しずつ減らし中。苦痛があるので距離を置いている。
・ほとんど交流したことがない盲ろう者の通訳の時、ひとり現場だと緊張する。特に長時間の時や移動も含む時は初回は先輩通訳者に同行してもらいたい。
・盲ろう者が男性の場合、トイレの介助→公衆トイレ等の場所中に入って状況説明するときに周りの目が気になる。出来れば男性の協力を仰ぎたいが、いつも協力してもらえるとは限らず、困るときがある。
・通訳介助を一人で担う場合があり、（パートナーが都合がつかず）どこまで通訳するべきか迷うときがある。（1 時間以上の手話通訳など）
・腰や腕に負担がかかるため、痛みがおこらないような予防法を知りたい。
・経験はほとんどありませんが、移動の際、盲ろう者が電車で座らないので２人で立って帰りました。腕を上げ続け（背の高い方でしたので）大変でした。・「他の盲ろう者が常識ない」と言われても…。何と答えてよいか…同意する事もできず困った。・細かい例ですみません。
・男の人を介助した時、トイレの介助の時、他に一緒に行動してくれる男の介助員がいればたのむのですが、二人でしたので、私が一緒に男子トイレにはいらなければならない時があった。
・技術面の自信がありません。かえって迷惑をかけたり、権利を損ねているのではと常に不安です。交流会などでは先輩の様子を観察して、まねしてみたりフォローしていただけますが、１対１で初対面の方だととても心配です。
・充分にコミュニケーションがとれない盲ろう者に介助することは不安に感じる。
・盲ろう者からメールで個人依頼を受けているが、○○に電話をして○○と伝えて下さい等と言われる。短いメールだけでは前後の関係や流れが分からず確認のメールをすると「もう良いです」等と言われる。

・音声通訳の時、場所によっては（電車の中、レストランなど）周囲の理解を得られず、嫌な顔をされることがある。又、それを解消する方法を盲ろう者と話し合ったことがあるが、結論に至らない。
・買物での通訳・介助。自分がほとんど行かない店での買い物の場合、どこに何があるか分からないので時間がかかる。自分が使わない物の買い物も品物の事が良く分からない場合がある。
・中途盲ろう者の場合、特に精神的に不安定な方が多く、通訳・介助者へのあたりがきつい場合があります。又「死にたい」などと口にされた時、、どのようにお答えすればよいのか困ります。私は女なので、外出中、男性のトイレに付き添っている必要がある場合、周りの目がとても気になります。介助中などの一目でわかる札などがあればと思います。又、糖尿病の方のインスリン注射を外出中にされる方がいて、それを手助けする時は周りの目に困ります。
・サークル活動の送迎など、拘束時間が長いのに実労働時間は短いという場合。納得して受けている仕事だが、体力面、精神面での疲労と報酬面とのバランスがあまりにも悪いと感じてしまう。自分の年令を考えると、どのくらい続けられるのかわからない。
・手話通訳がいない所への通訳介助の場合、筆談で言うことを伝えたりしているのがとても大変だ。
・通訳・介助は、通訳・介助後に本人より「チケット」をもらい、それを報告してという形です。盲ろう者より直接チケットを受け取る際に、本人が忘れているので、通訳・介助者より「チケットを下さい」と請求しなければならず、それがかなり負担です。その請求をすることにより「お金にがめつい」という印象を与えかねません。人間関係を構築する際に、やはり直接的なお金のやりとりにむすびつく費用の発生の仕方は工夫いただきたいです。手話通訳のように、コーディネーターがお金のやりとりなど管理する形が望ましいと思います。
・一泊の研修、旅行、さらに全国大会等の長時間の通訳介助は非常に疲労感が残ります。健康な時は動けますが、年々きつくなっています。
・心身の負担が大きい。特に移動介助や、買物などで予想のつかないリクエストが次々と出てくると精神的にもとても疲れる。年齢的な事を考えると 60 歳を超えると無理かなと思う。というかそろそろ辞めて手話通訳に専念しようかと考えている。　・盲ろう者が通介員を評価する時、限られた情報で判断するので、失敗がこわい。又一度評価が下されるとなかなか覆せない。　・盲ろう者が通介員の仕事を仕事としてみてくれない（謝金が高すぎると言われた時は失望した）。　・盲ろう者からは信頼されてはいるが、問題行動の多い通介員の存在（主観を交えた情報を提供するので、他の通介員が誤解されている。しかしなかなか訂正はできない）。　・通介員間で、通訳介助に対する考え方がバラバラ（主体性の尊重など）。等々。
・最初に依頼された予定が当日になって急に変更になり、追加でたくさんの所に行かなくてはならず、こちらの時間の都合があるのに、それを頼まれるとその場では断りにくいので困ることがある。
・通訳・介助活動を複数（２名以上）で行う時。例えば、盲の方がブリスタ通訳者、私が音声を行う時、盲ろう者の移動、トイレ介助等を私が行い、またブリスタ通訳者の移動介助も同時に行わなければならないときは大変負担に感じる。・友の会活動（役員会等）の通訳・介助活動は、電車、バス等の移動がある時、毎回盲の会員数名が同じ地域から参加されるが（ガイドヘルパーを使わず）必然的に盲ろう者の通訳・介助者が数名を介助することになる。安全に移動したいが、１人で数名を同時に介助は負担がおもすぎる。
・年令的に夜の外出は不安。街灯が暗かったり、例えば電車での混雑に非常に緊張する。
・通訳・介助活動をこれからも続けていきたいと感じているが、盲ろう者の通訳時間数が少なくなり、その負担が介助者に来てしまうのが毎年続いてしまうのであれば活動を継続するのは難しく感じている。

・他県からの依頼時の情報不足（コーディネーター情報量が違う）
・経験不足だと思うのですが、通訳介助の時間とボランティアの境目がなく、5 時間（交替はあるけどトイレ休憩だけ）以上担当する時は時間の配分が難しい。
・研修を受けて思うことは、通訳・介助者の疲労度がかなり大きいのではないかということです。介助（移動）と通訳を兼ねるのではなく、移動介助と、現地での通訳を別々に考えて派遣する方法はできないでしょうか。
・体力の限界を感じます。私より体重が重い盲ろう者の介助が辛いです。友達のように腕を組む盲ろう者がいますが、手引きをお願いする時は腕を組むのではなく、介助員の腕に手を置くなりとか、軽く腕を持つとか、盲ろう者の方々に貴協会の方からお願いできないでしょうか。ろうの介助員は通訳をする時、知識がないときちんと伝えられていないようです。
・通訳介助活動に際し、本人の当日のメンタル面において突然激高される人がいらした場合、意見の修正が難しく、結果、依頼元へ報告し解決した案件があったときは、本当に疲れました。
・自分の都合で、電話してこられるので、対応に困ります。精神的に疲れました。
・買物でいつも約束の時間が過ぎるのが困ります。・ガソリン代を請求したいです。・近くのお店に希望の商品があるにもかかわらず、遠い所の店の方が安心などと言われて、行くようになります。・時間の感覚がないので、長引いてしまいます。支援する方も言えたらいいのですが…
・時間数がオーバーしてしまう事がよくある
・派遣が決定した段階で、本人からメールがあったり、終了後メールがあったりするが、必要最低限にとどめてほしいと思います。
・値段が高いお店での食事の自己負担がきつい（一度だけです）ご本人の希望でしたが、お断りできなかった（反省）。
・介助依頼時間や移動場所を突然変更されると困る。前もってこの時間までと本人に伝えても、時間を守ってもらえなかったりする。ボランティアで介助の依頼があり、断ってもしつこくメールが来る。肩に手を添える時に強く持たれすぎてけいわん症になったことがある。
・現在、通訳・介助活動以外に、パートで仕事をしています。2 年前までは、パートしながら活動していましたが、精神的にも体力的にも活動するのが大変なので、現在は活動を休止しています。特に、介助の場合、仕事の調整、家庭の都合をつけて対象者と自分、2 人の命を守りながら…というのが負担になっていました。盲ろう者の通訳・介助活動というのは、自分にとっては空いた時間に片手間にできるようなことではなく、精神面や体調を整えてやらなければいけないことだと思っています。
・自分が行くことがその人の役に立っているのかどうかわからない。移動の時の命をあずかっていることが、自分が未熟な為、とてもこわいし、自信がない。

④通訳・介助業務の範囲

・盲ろう者が通訳介助以外の内容、冷蔵庫の具合、暖房器具の具合が見てほしい等の依頼がある。
・移動介助をする時、盲ろう者自身の買い物を手にあまるほど買ってしまうので、通訳・介助者がそれを持って歩くことを平気でうけてしまうのをよく見かける。その盲ろう者は、久しぶりの買い物だからと持ってもらうことは当然の様に言う。安全に介助することが一番なので、通訳・介助者の心得としても断ることも大事だと思うが、なかなか断れない。そのため他の通訳・介助者にも持ってくれることを期待されることがあり困る。
・インターネットを通してメールする盲ろう者は大丈夫ですが、点字が読めない盲ろう者との連絡に E メ

ールができない（代理にメール）。メールを頼まれるのはいいけれど、メール代というか通信代は支払っていない人もいます。

・通訳の交代中（休憩中）に講義のノートテイクを依頼されたが、これは対象外ではないか？盲ろう者にも認識をきちんと判断できるようにしてほしい。

・派遣された現場でベストを尽くすのは当たり前ですが、現場以外で盲ろう者からメールが来た時、対応に困ります。「〇〇さんがこんな話をしてた」とか言われても返信せずに無視しているのが現状です。

・盲ろう者本人の要望と、制度として対応できることに差がある。突然の通訳・介助の依頼やキャンセルの対応、通訳・介助員の車での同行など、個人的に言われて困惑することがある（また、他の通訳・介助員から聞くこともある）。他の通訳・介助の様子を見、自分の事を振り返り、互いに意見交換できる場があれば、通訳・介助者としてステップアップできるのではないかと感じる。

・盲ろう者同士のコミュニケーションは介助者が見てもいいか迷うことがあります

・支援者がパターナリズムにおちいっていると思われることがあります。支援者は教育者ではなく、サリバン先生ではないと思うのですが、長年、熱心な支援者であればあるほどその傾向があるかもしれません。（先生が支援者として入っているので仕方ないかもです。当事者の元気が以前よりも少なくなっていると感じるのはこのためかもです。支援者ががんばりすぎて支配的になっているかも。）障害者の自己決定とかエンパワメント等社会福祉的な考えの勉強をすることが、通訳・介助を学ぶよりも必要な気がします。

・盲ろう者通訳・介助員を１つのジャンルとすることで、困惑している。通常は業務として手話通訳を行っているが、専門性もありわかりやすくなっているが、盲ろう者の場合、手話の他点字や触手話、筆記、身体介護、生活援助と幅が広すぎる。障害当事者が困っていることはわかるが、通訳・介助員の行うべき範囲はまるで家族だったり、彼氏、彼女の様な事を行っている。ビジネスライクに活動できない。介護保険の制度に位置付け、保険業務として活動する方が公正に行えると思われる。

・通訳・介助者をしている人が、盲ろう者に対して個人的な交際をどこまでしてよいのか、その為に、その盲ろう者の方が１人の通訳・介助者の意見しか聞かない。いくらおかしいと言っても耳を貸すことがない。その壁に当たり、今悩んでおります。

・本人は歩行困難者であるが、いつも手土産を持っていく。一応自分で持つように言うが、長時間になると見かねて持ってしまう。

・通訳活動がまだ経験が少なく、盲ろう者の皆さんに指導していただいている状況です。ただ通訳に行った時の先輩通訳者を見て、戸惑いを感じる場合があります。確かにろう者通訳と違い盲ろう者通訳は常に側にいますので、必要以上に世話をやいてしまうかも知れませんが、その線引きをどのあたりでしたら良いのか。時と場合でちがうと思いますが、私の課題として考えたいと思っています。

・通訳時、おせっかいにはならないよう情報提供をするものの、急いでいる時などや周りの状況によってはつい待つことができずに手を貸してしまう。

⑤通訳・介助員の守秘義務

・厳密主義であるのに、通訳・介助員が口軽くおしゃべりする方がいらっしゃいます。特に聴覚障害者の通訳・介助員がいます（何人かいます）。それをルールを守る為には、方法などで解決してほしい。

・家族から（訪問したとき）依頼をうけたときの対応。・守秘義務の範囲。介助員が情報を交換できるようにしれば良いと思う。守秘義務で身動きがとれないと思う。

⑥通訳・介助員同士の関わり

・通訳・介助員が特定の盲ろう者をかかえ込み、当事者の派遣依頼まで口出しする。ごくまれにその盲ろう者の通訳を他の人が担うと後から通訳者が通訳内容を詳細に聞いてくる。その時の対処に困る。

・介助員からの情報をそのまま受けてもめる事がある。介助員の中に、自分を指名してほしくて、正しくない情報を入れる人がいる。盲ろう者が自分で考え、判断できる為には、いろいろな介助員がついた方が良いと思う。同じ人がつくと、その人の考えになっていく。

・パソコン要約筆記の方法や特性への理解不足により、利用者、その他の盲ろう者、手話通訳者、盲ろう者に係る方々から「正確に伝えていないのでは」と不信感をもたれること。

・友の会を立ち上げるべく、今活動しているところです。ですが、通・介助者の中にも、意見の違う人がいて困っています。同じ現場で話し声が聞こえたので通訳したら、話をしていた人たちが（通）が「発言した訳でもないのに通訳されてしまった。これでは何も喋れない」と盲ろう者に伝え、以後（通）同士、メモを回して会話する始末。その間、盲ろう者はほったらかし状態。大変驚きました。一緒に友の会に入っていただき、活動したいと思っていたのですが、まず（通）の研修から始めないと何も進まないと感じています。（通）を育てることは大きな、そして大切な課題だと痛感しています。私自身、間違いも無知もたくさんあります。勉強したいと思います。ご指導くださいませ。

・介助が２人派遣の時、相手の行動が対象者（盲ろう者）のためになるのか疑問に思った。荷物をもったり、お世話しすぎると思ったが、長く経験されている様子だったので言えなかった。

・ベテランの通訳・介助員が私が若いからと言って注意を受け入れない。（例：盲ろう者に意見を求める為通訳者に声を掛けると「今忙しいから。」と盲ろう者に話しかけられた事を伝えずに通訳者が返事をした為、「話しかけられた事も通訳すべきでは？」と言うとにらまれた。車椅子利用の盲ろう者の車椅子を段差の際に前向きに降ろそうとしていた為、「危ないので手を貸しましょうか？」と声を掛けると「今日は私が通訳者ですから結構です！」本人のプライドより盲ろう者の安全が危ぶまれるのに聞き入れないのはどうかと思います。）コミュニケーション技術だけでなく、その他の障害（上でいう肢体不自由など）の知識もないと通訳は出来ても介助はできないと思います。私はたまたま福祉職で技術もありますが、通訳のプロの方はプライドばかりなので。

・外部から「通訳資格もない難聴者が（盲ろう者に対し）通介するのは生意気！」「通訳は私達、手話通訳者に任せればいいのに」そんな言葉をイヤと云う程聞いてきました…が！友の会のみんな、もうろうの仲間に知られたら傷つけるから、静かに消えて、いなくなりたい。

・健聴通訳・介助者がろう通介者に私は技術はちゃんとあると思っているという態度が見苦しく思うときがある。盲ろう者の立場、持っている理解力に合わせて通介をしてほしいと思う。二人通訳の時に感じます。

・筆記通訳では漢字が劣る私としては苦労をしております。学歴の高い利用者の方にはなるべく漢字でとか、ベテランの通訳介助の方々の中には慣れない私達にきつく指導される方もおり、最近では月に一度の交流会も足が遠のいている状況です。もう少し暖かく見守りつつ、ご指導いただければ幸いです。

・通訳・介助員同士のかかわりが難しいように感じている。私は聴障者だが「情報の保障」について健常の通訳・介助員と考えが合わない。聴者の通訳・介助員は集まりで盲ろう者を１人にしてはいけない。それはろう者と手話通訳者にも言えることだと思う。「聞こえない」ことを十分理解して通訳・介助をしているようには見えない。私の県では、友の会の土台作りをしていくことが大切だと考えている。

⑦通訳・介助員の団体・情報交換の場

・××県より派遣要綱改正案を提示され、1 月 9 日説明会が開催された。県職員は現場を知らず、予算削減のための案を半ば強制的に打ち出していていると感じる。利用者である盲ろう者にも相談せずの行動だ。通訳・介助員の組織がない事も、県の言いたい放題を助長させているのか？と思っている。組織が必要だと。

・通訳・介助員の団体もない為、日頃の活動を振り返り、検証し、認識を共有していく手段がない。高い通訳技術や対人援助技術が求められる仕事であるのに、現在は介助員の認識の違いがありすぎる。養成、指導する側の知識や技術を磨く場がもっと必要だと思う。

・困った時に相談できる相手がコーディネーターだけです。地域に通訳・介助者集団がないので、事例検討などの時間が限られています。又、手話以外のコミュニケーション方法を身に付ける場が限られていて、地理的に恵まれていないと、指点字など学べない状況です。

・通訳・介助員同士の交流や、ガイドの方法で改善できることなどを話し合える場が欲しい。一年間に一度の更新時の会議はあるが、本音のところの話や具体的な話はできない。

・通介者同士で情報交換や悩みを相談できる場所がない。

・通訳・介助者同士の交流、意見交換の場が少ない。例えば、盲ろう者 A さんに接している人たちの意見交換、話し合いがあれば「あっ、こうすればいいんだ」とか「こんなくふうしているんだ」といったことを聞くこともできると思う。

・体験講座の通訳・介助（例えば絵を描く、陶芸など）の時、どのくらい手を出していいのか判断できない。他の通訳・介助者との情報交換が必要。

・通訳・介助員同士の情報交換。

・通訳・介助員同士の交流の場があると良いと思います。日頃の通訳上での悩み、相談、経験談が気軽に話し合えると気づきがあると思います。

・特にありませんが、他の通訳者の経験談を聞いたり、相談できる機会があるといいなと思います。盲ろう者を排除するということではなく、ただ通訳・介助者同士でないとわからない経験というものもあるのではないかと思います。

・通訳・介助者の検証学習、意見交換の場があると良いと思う。

（4）講習会や相談の場

①スキルアップの場がない

・通訳技術を高めるための勉強の場がとても少ないこと。通訳・介助員の団体がないので、スキルアップの為の情報交換の場がない。

・手話、点字の勉強をしたい。

・通訳介助活動を行えていませんので、特に困っていることはありませんが、もっと勉強会を増やしていただきたいと思います。

・技術に自信がないが、スキルアップ講座など受講できないことがあったり（時間的な問題や、希望者が多いためなど）継続して勉強できる場が少ない。仕事をしながら通訳介助を行うことは、時間的に厳しい面もある。

・まだ始めたばかりの若葉マークです。先輩達の体験談を聞きたいと思っています。机上の勉強も大事ですが、場数（体験する）で学ぶことも多いと思います。（トラブル時の解決策など）

・全国的な講習会に参加して、介助・通訳についてもっと学びたいが、遠方であることと、日時が合わず残念です。参考文献なども少ないのが悩みです。
・講座を受けてから、スキルアップの時間や実習などもっとあっても良いのかと思いました。日々、ふれ合い、話すことにより、よりいっそうの質の良い通訳になれるかとも思います。人間対人間なので、心の通った時間共有が持てたらと理想ばかりは大きいです。
・現任研修の内容を充実してほしい。
・触手話講座があればうれしい
・自分自身の通訳・介助技術の向上が必要(指点字をもっと練習したい)。　・県外での活動を希望しているが、なかなか思うようにいかない。　・技術向上して、もっと活動したいと思うが、なかなか思うように活動ができない。派遣元との話し合いと雰囲気づくりを。
・通訳・介助者に対する現任研修および情報交換の場が少なすぎる。レベル up、スキル up のためにも県は計画してほしい。
・前にも書いたが、ブリスタ系の点字を覚えたい。また、文通をしているが、ブリスタ系、パーキンスブレーラーが手に入りやすくしてほしい。今の点字では、役に立つことが難しい。指点字をマスターしたいので、中古でもいいから紹介してほしいです。普及させてほしいです。
・××県は視覚の方が多く、指点字や点字の勉強は多いが、手話の勉強時間が少ない。そのようなサークルもあるが、あれもこれもとは参加できないので、友の会で時間がもっとあるとよいと思うが、視覚障害の方が多いので、なかなか受け入れてもらえない様に思うし、一緒懸命お世話している役員の方々の苦労もわかるのであまり強くは言えない。県外の方との交流の時に、手話ができない自分がとても歯がゆくて仕方がない状況で 2 日間終わってしまったこともあり、今、通訳介助に迷っているところです。本やパソコンを利用して自分で勉強したりしようと思い視聴してはみるが、何度も倒れてしまい、続かないのが現状です。パートと嫁との合間にまた挑戦してみます。
・近くに通訳介助研修会が無いため、独学をしていますが、独学に限度があるので、技術に自信が持てない。
・手話を使う機会が少なくなり、だんだん忘れてしまうのではないかと不安です。自己研修で手話を学ばなければならないのでしょうか？１人で学ぶには限界があるので講習会があれば参加したいです。
・まだまだ実質的な通訳介助活動の経験が少ないので、登録している友の会でのサークル活動に参加して、色々経験者や盲ろう者ご本人から教えていただきながらの活動という現状ですので、盲ろう者さんの慣れや相性というのでしょうか、人によって、反応がなかなか返ってこないと、自分の伝え方に問題があるのかもと不安になります。　　触手話ひとつにとっても、相手の年齢によって、使う手話が違ったり（それは普通の手話でも同様ですが）手話の時に何気なくしていた行動(表情、うなずき)が使えなかったり、そういったことのカバーする方法も相手によって異なるので、こういうものだと教わりにくい難しさがあります。触手話に重きを置いたサークルや講座、学習会を地域、全国レベルで実施してほしいなと思うことがよくあります。
・サポートの仕方がこれでよいのかどうか検証する場がない。例えば通介同志で、個人名は伏せたとしても、事例を挙げて話し合う場がなく、漠然とした形でとらえたままで改善できないことが多々あります。「個人情報」が技術向上の壁となり、ほんとうに当事者にとってプラスになっているのか疑問に思う。
・現任研修の数が少なく参加できない。
・通常の通訳（手話）であれば、通訳者の表情、口話を読み取ってもらえるが、触手話の場合、手の動きだけなのでより難しいと思うが、まだ試験制はありません。コミュニケーション方法毎に試験を実施す

ることは難しいと思いますが、せめて通訳・介助員とは何が必要なのか？盲ろう者の自立とは何か？自己決定とは等々学ぶ機会を増やしてほしいです。又介助員同士話し合える場がほしいです。

・研修会が全くない。・課題・問題点を報告し、検討する場がない。

・活動する上で手話や点字を教えてもらえる場所とかが少なく、平日の午後だけだったり（17：00 まで）して、仕事をしている人は辛いかな。

・盲ろう者や障害と接していくのに、介助に当たる資格も重要クローズアップ化と災害の危機の知識と人命を守るのにも、公的格安に介護職員研修、防炎士、福祉用具専門相談員、ガイドヘルパーetc.の資格取得講習会もプラスαとスキルアップ化測るのにも、介護、介助専門家として活躍するには、ご提言いたしたいので、国の激安職業訓練化としても、実施のほどお願いいたします。それと同時に、県のハローワークも通さずにおこなえて、かつ労働もしつつ出来ると生活面でも助かります。盲ろう者は困ったときに自ら help,save me,SOS のシグナルを、体と耳などの障害のお持ちの方は出すことができませんので、我々健常者は田舎はやることで、無視と陰口と仲間外れ、デマ、口をきかず、追い出すことをやる人がいるが、解説の案として、お役所、専門家、団体、身近へつなぐとき、表現技法、ご理解、存在して、サポートの方法、などが知ることで、key となります。介助、相談のコツを学びたい。

・スキルアップできる場が身近にない。（専門的に相談できる人も。）（年に数回、研修の場がほしい。）派遣業務実施報告書とチケットを郵送するのが大変。チケット方式を他の方法に変えてほしい。報告書は FAX で送れるようにしてほしい。

・経験が少ないので、経験をつむための機会を与えてくれる場、講習会を増やして頂きたい。通訳・介助活動で失敗や疑問、悩みを相談できる人、場所を作ってほしい。第三者が（自分の）良い点、悪い点を指摘していただくことも、成長につながるので、そういう窓口を作って頂きたい。

・登録後のフォローアップが必要なので、研修があればよいと思ってます。2 年後の今年、初めての現任研修のお知らせがきましたが、研修日まで 1 か月位と短く、仕事の予定も入ってしまっているので、もう少し早く連絡がほしかったと思いました。年に 1 度だけだと、その時欠席になったら受けられないままなので、せめてあと 1 回だけでも増やしてほしいと思います。仕事柄、ろう者・盲者にお会いしますが、頑張って!!といつも声をかけていただき、うれしく思います。そんな方々のために少しでも力になれればと思っていますが、実力をつけれない（場もない）のが悲しいです。

・勤めているので、年齢もまだ年金受給にならないので、ボランティアができる年齢 65 歳になったら、もっと講習会などで介助員になれるように学ばなければと思っていますが、現在では勉強不足です。

・高齢化に伴い、従来の通訳・介助だけでなく、介護を含む場面がある時、登録者としてその研修の場がないこと。（本来、通訳・介助と介護は別のものですが）

・活動に関して、振り返り学習や研修会に参加したいと思うが、個人的な都合もあり、なかなかできずにいる。全国的な研修会は都市部中心なので、なかなか泊まりを兼ねて参加することができず、悔しいやらもったいないやら…

・技術不足であることから、研修の充実、自己研鑽の必要性を想う。・関係を築きながら社会参加を支援したい。

・日程などが合わず活動できていません。その間に講習の内容もうすれてきてしまいました。定期的に自由参加のできる学習会や情報交換会などがあるとつながりも持てていいなぁと思います。また、実状や体験談なども聞いてみたいと思います。

・年に 2 回の研修は必要でないかと思います。修得した年数によってレベルに合った講義、実技をもう一度学びたいと思います。

・触手話のレベルアップをしたいと思っています。
・経験が少ないのでスキルアップしなければならないと思いつつできずに、たまの依頼をうけているので不安です。依頼する方は、忙しいからと気を遣って依頼を控えて下さっているのですが、せめて月１回くらいは現場をふみたいです。
・通訳介助活動で疑問に思ったこと、課題だと感じたことを報告書に書く以外に研修の機会がない。（コーディネーターからの返答はまれ）。活動に対する報酬が下がり続けている。派遣時間が増えて予算を圧迫した時の派遣元の対応が「単価減」「中抜き（会議中は通訳・介助員ではない）になりがちで将来好転するように思えない。予算獲得のために事業計画等の方針を打ち出せないか。
・通訳・介助員の支援の方法が個々に違う。盲ろう者が介助員から受ける支援が違うため、対応に困るときがある。（例）介助員が何でも先回りしてしまうなど盲ろう者ができないこと（自立）や社会性、コミュニケーションが狭い範囲になってしまう。やはり通訳・介助員の盲ろう者に対しての「あり方」などの研修の時間欲しいと思う。私も学びたい。
・問２４の項目で困ることについては、学習会で話し合うことが大事と考える。介助員が１人でかかえこんでやめるケースもある。　・盲ろう者自身も学習をし、制度の理解が大切と思う。　・対人間として、１人１人の状況把握し、情報提供しながら良い関係を保つように心掛けている。　・移動時の方法についても、両者がともに学び、共通認識が大切。
・通訳介助は聴覚障害だけの研修会を開いてほしい。運営委員会の活動の講習会。倫理委員会の設立は必要ではないか。

②相談の場

・スーパーバイザーの不在。通訳・介助者相互の検証等の場がない。自身のとった行動について事務所に報告しても適切な回答を得られない。また、提言等に対してもその後の行方がつかめない。
・対応や判断に困る事態や不安な事柄が起きた時、また、制度や情勢、紹介先などを相談された時、アドバイスいただける機関がない。※情報提供機関リストなど、心構えや基本的な対応なども含めて「通訳・介意所員手帳」として、手元に持てるものがあるとありがたい。
・通訳についていけなくなる事。困ったことがあっても相談する場がない。自分の障害話したらいいか言わない方がいいかわからなくなる。
・現在派遣事務所がなく、個人依頼や各種センター等、様々な機関が関わってコーディネートしている。本来はそれを特定してあれば通訳介助も、盲ろう者も苦情を言える場所があるのにと思う。（問題が起きた時、（特に個人依頼した時など）解決するきちんとした機関がない）
・コーディネーターとの意思疎通がうまくとれない（一方的な面）・的確な指導が受けられる研修があまりない。・派遣事業の要綱に関わる（活動に関わる）説明や疑問に答えてくれる機会が少ない。・通訳・介助員同士の意見交換できる場がない。（組織？）・通訳・介助員の状況がバラバラすぎる。（分野別の資格？）・通訳・介助員はボランティアではない。（資質の向上を）
・通訳・介助で判断に迷った時などの色々な問題点を、介助者同士や盲ろう者も交えて話合いをする場がほとんどない。Q&A みたいなものがあれば、と思うことも。
・まだ経験も、学習も不足なので、改善しなければと思うが、方法などや相談できる人がいない。盲ろう者と接したことで自分が成長できたかなと思う。積極的に行事なども参加してみたいが、性格的に無理だと思うことがよくある。
・相談できる通訳・介助者がいない。情報センターはあるものの、地域のわかる通訳・介助者に相談した

いが、他言してはならないと思うと迷って結局言わないでいることが多いです。

・他の通訳介助をしている人を見て、盲ろう者に対する態度や通訳介助方法をまだ理解していないと感じる行動があっても、それを言う所がない（コーディネーターにも言いづらい。悪口みたいで。）

・視覚障害者へのガイドヘルパーでもありますが、盲ろう者の場合、特にガイドの方法のコミュニケーション方法も十人十色です。知的障害を併せ持つ方もいらして、介助者は現場で様々な判断を迫られます。そういうと「判断するのはあくまでも盲ろう者です」と上から言われますが、そういってはいられない場面にも多く遭遇します。養成研修を終えたばかりで現場に放り出される身としては通介者の悩みを聞いてくれる相談機関や通介者同士の情報交換の場がほしいです。結果、より良い通訳介助の実践に繋がっていくと思うのです。

・通訳・介助に関することは、派遣コーディネーターに相談しているが、コーディネーターの身分保障がなく、その上、多忙を極めており、何とかしなければならない状態です。委託事業として実施していますが、県のコーディネーター手当は微々たるものかと思われる。自分が困っていることをコーディネーターに持っていくということは、コーディネーターをもっと忙しくさせる事であり、申し訳ない。

・相談できるところがない

・盲ろうの方との距離のとり方。親しくなりすぎても、事務的でも良くないと思う。　・盲ろうの方から誤解され、暴力的行為を受けても相談できる窓口がない（１人で耐え、時が経つのを待つしかない）

（５）コーディネーターへの要望

①コーディネーターに望むこと

・コーディネーターの判断で時には１人であったり３人であったりして、盲ろう者も困っています。３人依頼されたら、それに答えるのがコーディネーターの仕事ではないでしょうか？大きな大会等では１人では通介できません。通行時だけなら大丈夫かもしれませんが、慣れない場所等は複数で対処してほしいものです。市内だけの通介が不足の場合は郡部にも通介はいます。配慮願いたいものです。

・コーディネーターからの依頼が日が迫ってからのことがほとんどで、すでに予定が入っていて受けれないケースが多い。コーディネーターが盲ろう者に対して理解が遅く、感情的になりやすいコーディネーターにも研修を義務づけてほしい。派遣事業を聴覚障害者協会に委託しているため、手話通訳の派遣と兼務しているので、盲ろう者向け通訳・介助員派遣を専門に関わるコーディネーターが居た方が盲ろう者にとって満足のいく派遣となるし、通訳・介助員のストレスも軽減するのではないか。

・緊急時に事務所の方と連絡が取れず、指示を仰ぎづらい体制である。（事務所の方が盲ろう者なので）自治体の方針があいまい（たとえば利用者を介助者の車に乗せること等）で介助者によってやり方が違うので、利用者も戸惑うことがある。事務所の方が利用者の病状や障害の程度等を把握していないので、困ります。

・盲ろう者が希望する通訳・介助者が必ずしもコーディネートされず、盲ろう者が困っている、つらい思いをしている現状があります。コーディネーターが、公平な立場でなく、また予算がないこと等を理由に依頼を断られることもあり、問題を感じています。解決への糸口も見つけられず、何か起きたら…という不安をかかえながら、個人的な関わりの中で通訳介助しています。

（６）派遣事業や制度

①派遣事業

・盲ろう者の方に「通訳介助を依頼したが、予算が足りないので、と行政から言われた」と聞かされ、とてもショックでおどろきました。こんな状況のままでいいのだろうか？と考えあぐねています。

・××県の場合、派遣を委託されている団体が盲ろう者支援に熱心ではありません。盲ろう者に対する思いが担当者にない為、良い支援がなされていません。盲ろう者はあきらめています。派遣委託団体の選定を再考して頂きたいです。ここ数年の養成研修、現任研修も毎年同じです。現任研修のレジメを見て頂くと一目瞭然です。盲ろう者に甘えています。失礼です。

・要綱の内容と現状が違うこと。たとえば交通費、入場料等。（通訳時にかかった通訳分の支払いが自己負担（通訳の）となっている。県外通訳・介助者の際、謝金が割に合わない。（当事者からのねぎらいもなく、報われない感じを感じる時がある）。負担が身体的に、金銭的に、日程的に重い。家庭にも迷惑をかけて、出かけている最近は非常につかれてしまう。いつまで続けられるかわからない。（本当は続けたい。続けないといけないが、地元活動のみにせざるを得ないかも）

・活動について派遣費が全額支給されないこと。盲老人ホームに対する不満など話されることがありますが、どこまで立ち入っていいのかわかりません。また、連絡等が大活字で渡されるたので、それの点訳を頼まれますが、通訳介助には含まれないので派遣費は出ませんと言われました。でも実際問題として施設とのコミュニケーションをとる上では必要なことに感じています。（本人はこのことをご存じありませんので、依頼されたときは無償でしています。）県に予算がおりないという理由で情報提供の制限があってはならないと思いますが、他の視覚障害者の方には「ボランティアでしなくては、しょうがないでしょう」と言われ辞めたくなっています。また、私が自分からプライベートなことを話すことはありませんが、根掘り葉掘り盲ろうの方から聞かれます。話している内に非難されるようなことも言われました。最近はやりがいを感じなくて心が折れることばかりです。他に代わりの人もいないので、辞められません。

・県外に行く時など、交通費(本来なら介助される側が支払い？）が半額とはいえ、結構かかるので、大変な時がある。

・交通費を請求することが難しい（例えばタクシーや JR での同行の時）

・盲ろう者と同行時における旅費、交通費負担について、収入のほとんどない盲ろう者に出してくださいとは言いにくい。全国大会等の旅費は自己負担で参加している。何らかの補助がほしい(県に対しての要望)。

・私は接近手話および触手話通訳を主にやっています。その謝金の問題ですか、ある盲ろう者会議の時 2 人通訳がつくと思います。1 人は市派遣で来た通訳者、もう 1 人は盲ろう派遣での通訳者、仕事の内容は全く同等ですが、謝金の額が違います。また、市派遣の人は介助が出来ないということで、盲ろう派遣の人が休憩中もトイレ介助等行います。私はこの現状に少々違和感を持つのですが… 盲ろう通訳・介助者を増やしたいと養成事業で手話サークル等に呼びかけても、手話関係の人数が集まらないと聞きますが、今のままでは仕方がないのではないかと思っています。

・依頼者の自宅(現場)まで行くのに時間がかかる。その保証がないのはどうなのかと疑問に思う。

・自宅まで迎えに行くが、急に休む場合（キャンセル）があります。事前に連絡を取り合える方法はないかと思案しています。

・たまにですが、ドタキャンをされることがあり、そういう時は非常に困る。

・以前、音声で活動した際に、キャンセルが多く、月の依頼の半分がキャンセルの時もありました。キャンセルについて、障害者なのだから仕方がないでしょうと聞かされがっかりした事があり、私の心持がせまいのか自問したものです。結果、その方との活動は止めました。このところ依頼はありませんが、街や駅で白杖の方をお見かけすると、声をかけさせていただき、必要であれば一緒に歩かせてもらうことが自然にできるようになりました。
・報告書には細かい内容までは書けない（時数の問題）・盲ろう者の生活の質を上げるために、通訳・介助者ができることは何なのだろうかと考えてしまう。おせっかいはダメだと思っているが、情報提供のあり方は、どうしたらいいのだろうと思っている。
・県外から来られる盲ろう者への通訳介助は初めてお会いする方であり、コミュニケーション手段の細かい点がわからない上、介助にも不安があって依頼を受けることができないです。もし、２人での（同行通介がいる場合）通介であれば、アドバイスやフォローも可能なので安心できるのですが、予算の都合などもあって１人派遣での依頼です。この点をもう少し考慮して複数派遣の制度にできればと考えています。
・盲ろう通訳・介助派遣について、行政の手話相談員との連携がある方が、本人を包括的に支援出来るのでは？盲ろうのみ単独ではなく、他の支援機関との連携体制をとるべきでは？
・通訳・介助員の登録をして２年ですし、対象者は地域に１名です。派遣数は年に２～３回ですが、サークルや個人の交流があります。現場で困ることはないのですが、交通費や食事の負担が依頼者であることに大変疑問を感じます。積極的に社会参加したい行動に自己負担が重いのであれば、参加する回数がどうしても減らす事になると本人が言ってました。
・技術に自信がないから、最初は慣れた人と２人でというわけにはいきませんか？
・地元では、通訳・介助員の制度が浸透していない。道の講習受講後、地元の私が手話通訳登録している団体に、利用者申込書やパンフレット等を持参したが、その後ＰＲしてくれた気配はない。ろうベースの盲ろう者しか知らないが、地元の手話通訳制度を利用している。接近手話の対象者はそれでも対応できるが、触手話の対象者は、地元の行事に参加する際は触手話のできる手話通訳者が行ったりしているらしい。もっと市町村への制度の周知をしてほしい。盲ろう者本人、家族にも周知してもらうよう促してほしい。また、××県はとても広いので、エリア別に講習を実施してほしい。私の住む地域には、触手話の対象者に対応可能な手話通訳者が数人おりますので、近場で講習があれば受講・登録できると思います。
・盲ろう者から、直接通訳/介助の依頼を受けた時、公的派遣の場合、コーディネーターが派遣調整するのが筋だと思うが、それが盲ろう者に十分認識されていない現状がある。
・高齢者の多い地域で、交通手段も限られているので、盲ろう者にとって、支援が必要なことはわかりますし、できることは十分行いたいと思っています。しかし、事前の連絡なく、休日でも当日依頼が入ったり、あくまでも通訳だと思うのですが（どこまでが範疇か迷うのですが）ヘルパーのように、通訳者に何でもしてもらえると思っている盲ろう者の家族もおられます。直接依頼できるのも、良い面、悪い面があると感じます。直接依頼されると断りにくいと感じることもあり、手話通訳のように派遣のコーディネートをすべて通してもらった方がいいかと思う時もあります。
・派遣日時の終了時刻がない（事前にわからない）時が多々ある。一度の依頼であれもこれもとその場で言われることがある。派遣元は「常識的に一」と言われるが、その場で断るのは難しい。
・利用する方の時間数が足りなくて時々ボランティアを依頼されることがある。動ける時は動くが、事故の時が困る。

・個人的にというより、××県の通訳介助活動を実施する上で問題点です。現在盲ろうの通訳介助のコーディネートをする場所が確定していません。ろうベースの場合は手話通訳派遣コーディネートのかかわりから、情報センターコーディネートをしていますが、個人交渉でも依頼を受けることもできるため、担当者が活動の全体像を把握しにくい状況にあります。盲ベースの場合はもともとコーディネート制というものはないため、すべて個人交渉となり、1人の人に依頼が集中して負担が大きくなるという例もあります。チケット制度であるため、盲ろう者一人当たり年間240枚という制限があり、使用が多い人（役員など）とあまり使わない人との差があり、使用が多い人は枚数を気にしながら生活上の制限をされてしまうという不公平な状況となっています。チケットは通訳が盲ろう者個人から受け取るため、受け取る枚数などでトラブルになることもあります。コーディネート制になれば、チケットの個々のやりとりでなくなったり、盲ろう者がチケットの残枚数を気にすることもなくなるのではないかと思います。
・登録地域の方が関東にきたときの通訳をするために登録をしています。このような個人の遠隔地登録ではなく、広域派遣なり、（派遣窓口同士で連携）貴協会からの派遣という形がとれるといいのではないかと考えます。派遣依頼の上限がある自治体が多くあるようです。通院等で多く使うと、研修会やイベントの参加を控えてしまう実態があるようです。きちんとした制度として保障できるようにしてほしい。交代通訳が少なく、長時間で肉体的にハードなのに報酬が少ない。活動ではなく、専門職としての制度確立を希望します。
・通訳介助業務に関して、損害保険の加入。自家用車使用について料金（実費）の負担をしてもらえない。各盲ろう者に対する派遣制度の利用方法などが知らされていない。各盲ろう者が利用できる時間など判断基準は何かわからない。
・派遣事務所の開所日、時間が限られているため、緊急時の連絡先がないので、仕事に穴をあける不安を常に持っている。　・地元に盲ろう者がいないので遠方まで行くため、交通費の助成限度額をオーバーする依頼は断らざるを得ない。せめて会うまでの交通費は全額助成してほしい。　・介助者を育てる、増やす指導者的存在の盲ろう者の育成を（ご本人コミ手段が手話だとしても指文字や手のひら書きでも受け入れて、介助者に実戦・経験の機会を与えていただきたい）　・公開できる情報は可能な限り協会のホームページで閲覧できるようにアップしてほしい。どうしても「詳細は友の会事務局にあるので問い合わせて」となると、二の足を踏んでしまう。　・友の会の会員は登録介助者だけではないのに、友の会の行事にチケット（謝金）が発生する行事と、発生しない行事とがあったり複雑に感じる。
・終了時間の予測がつかない時があり、依頼を受けられないことがある。例えば、会合終了後、食事に行くなど。もしも予定があるなら前もって教えていただかないと、自分にも家庭があるので…。又、送迎があるのは当然ですが、あまり帰りが遅くなると、自分が帰る手段がなくなってしまいます。私たちでも普通に帰りが遅くなったり、突然食事に行ったりということがるので、盲ろう者だけに前もって予定を、とお願いするのは理不尽だとわかっておりますが…。
・チケット制で、足りなくなると2人体制を1人でもよいかということがある。
・盲ろう者の利用時のチケットは生活を制限してしまうので自由に利用できるようにしてほしい。・制度がすすまない内、高齢になり、後に続く人がいないことで続けてきましたが、責任の重さ、体力、気力を考えると辞めざるをえないと思う。
・車の利用が認められないので、お互いに困る事が多い。
・盲ろう者の会うまで、又、活動を終えて、自宅に帰るまでの交通手段として車が認められていないので、認めてほしい。乗換えや不便な場所だと徒歩で移動したりすると時間がかかってしまうので。
・派遣時間数が不足し、盲ろう者の外出がままならない状態です。県から資金不足にて増やせないと‥。

ボラで活動するしかないとも。

・移動での通訳（往復）の派遣のとき、依頼者が目的地で活動する間は派遣に含まれないが、時間を持て余す時もある。たとえば往復2時間としても活動は一日がかりになってしまう。個人登録なので、養成講座を受けなければいけないのですが、他の活動と時間が重なったり、講座開催地が遠かったりで受けられません。盲ろう者はコミュニケーション方法が一人一人違うので、他の盲ろう者と会話ができなくて困ります。

・支援活動の時間数が少なすぎて自由に行動できない。制限の中でいかに幸せな人生を送ってもらえるのか自分の勉強不足のせいで助言するのが難しい。盲ろうの本質が世間の人に説明するのが下手でいつも悩んでいます。集まる場所（ホーム、デイケア、デイサービス）もちろん仕事もなく苦しい思いをしている人に希望を与えられない。

・制度そのものが利用しにくいと当事者の声がある。１．利用時間が決まっている。２．公共交通機関の利用と限定されているが、不便な地域では使いにくい。/介助時の通訳と、講演会や研修会などの通訳保障を分けて考えられないものか。手話通訳の派遣と同様に盲ろう者への通訳派遣を考えてほしい。理由は、主催者との事前打合せなどが必要であり、介助と兼てはできない場面がある。介助通訳と、催しの通訳は分けるべきと感じています。通訳・介助員（訪問相談員）に登録すると、どのような活動があるのかよくわからない。

②派遣時のトラブル

・一般常識に欠けた手引き者が目立つ。通訳介助の予約を横取りする人が居る。チケットの枚数が、盲ろう者には理解していないのかバラバラで、枚数をケチる人が居て困る。

・金銭がなくなったと伝えられると（私は全く財布には触れないようにしている）本当の事が分からないので、答える方法がなく、本人に注意するように伝えるのみになってしまう。

③人材不足

・通訳・介助者がまだ少ない。チーム力が弱い。（一人ではできないこと）

・人材が少ないため、通訳・介助活動について、仕事を休んで行くしかない。

・人が増えないこと。盲ろう者友の会企画担当をしていますが、行事等への参加（通訳・介助員）が少なく、とても毎回困っている

・今の制度で、在宅の盲ろう者をサポートするのでは、まだまだ足りない。もっともっとサポートできる人を増やしたり、謝金の単価を上げたりしてほしい。

・男性の通訳・介助員をどうやったら増やしていけるか？

・登録者がまだ少ないため、長時間の依頼が多く、体力的に厳しい。

・通訳・介助者と盲ろう者が固定されていて新しい通訳者が育ってない。

・自分自身は技術が未熟で、自分自身の業務および団体活動が忙しく十分なフォローができていない。介助員で活動される方が限定されてしまい、負担が大きいのではないかと危惧している。なかなか介助員が増えないが、やはり支援を継続するためには人員をふやす必要がある。また在宅の盲ろう者が社会参加できるような工夫が必要と考える。

・通訳・介助やる人、男の人足りない。

・新しい講習会修了者の登録が少ない。終了者もコミュニケーション方法の上達を目指し、盲ろう者も終了者が参加、活動ができやすい状況を作れるように。

④制度の充実

・介護保険認定調査(75 項目)、障害者程度区分認定調査(106 項目)、いずれにしてもコミュニケーションに関する調査項目がないに等しい。特別事項の欄も設けてはあるが、調査担当者(市の福祉課の職員)が盲ろう者についての知識がなければ、特別事項の書き方もあいまいになってしまう事がある。また、各市で判定会議も行われるが、これも、判定に関わる方々に盲ろう者への知識、認識がない方ばかりの状態で、何を判定基準にされるのか…？出された結果は、非常に疑問が残る。

・歩行訓練等、受けていない盲ろう者に対するフォローに苦労することがある(中途でなった人)。いつでもどこでも受けられる訓練体制づくりを望む。

・盲ろう者に対して、24 時間体制でサポートできるのが理想であると思うが、自分の家族に、障害者、病人が居るために、時間的に介助するのが難しい時間が多すぎる。サポーター(通訳)をサポートできる仕組み社会・行政が一丸となってやってほしい。

・仲間として接する場合と、通訳・介助者として担う場合、関わり方を明確にしているつもりだが、盲ろう者の受け取り方はあいまいではないかと思える。送迎が認められていないため、公共交通機関のない不便な地域の盲ろう者を自車で送迎するには、通訳・介助者（会員）と盲ろう者の二人の問題・責任とし、友の会も派遣も関わり知らないという状況。制度の中で確立してほしい。

・盲ろう者の通訳・介助者としての倫理要領が速くできるとよいと思います。レベルアップをして色んな盲ろう者のコミュニケーションに対応できるようになってほしいです。盲ろう者自身が通訳・介助者の仕事をもっと理解してほしいです。

・盲ろう者一人一人によって求められているものが異なるので、できるだけ多くの盲ろう者と接していかなければと思う。・これだけ多様性のある盲ろう者の通訳・介助なのに、手話通訳などと比べても謝金単価が低い。通訳とガイドヘルパーの両方を合わせもっているような内容なので、それらより低いのは問題だと思う。

・聴覚障害者相談員（生活全般）で、盲ろう者通訳・介助者派遣コーディネーター、盲ろう者通訳・介助者関連事業（養成、現任研修）の担当をしており、また、身内い盲ろう者がいるため、他の通訳・介助者という違う立場にあるように感じます。回答に悩みました。聴者主催で聴者のペースで進行、会場の工夫ができない場面で、精神的、肉体的に苦痛してしまうこと。一過性なので、あまり良くならないように感じる。手話言語法や情報コミュニケーション法など一日でも早く法制化にしたらよいのではと思う。

⑤啓発の必要性

・県内で確認されている盲ろう者の人数に比べ友の会等で活動している盲ろう者はほんの一握りの方々です。外出できない方々、ふれあう場がある事を知らない方々に伝える方法をいつも考えています。

・××県での登録盲ろう者が 5 名以下であり、盲ろう者の掘り起こしが必要であること。

・××県では通訳・介助者はたくさん居るが、利用する盲ろう者の登録が少ない。せっかくある制度なのに、利用者が少ないと制度そのものが危ぶまれる・

（7）活動に関して

①派遣依頼がない

・せっかく登録しても活動依頼がないために殆どの人が活動していないのは、自分も含め勿体ないと思う。

・登録しても一件の依頼がない。経験を求められても、勉強の機会がなく、次年度は県の登録を止める。
・実際あまり依頼できないので、登録している実感がない。受講直後は指点字なども覚えたいと思ったが、使う人も身近にはいないようで、覚える意味がないと思った。友の会で交流会などをされているが、遠いので殆ど参加していません。経済状態も良くないようで、いつの間にか通訳料も減額（期日付き）されました。テンションは下がる一方です。
・もっと多くの盲ろうの方に接し、解除してあげたいと思っていますが、依頼がないので仕方ありません。聞くところいによれば、ほとんど毎日通訳なさっている方もおられる由、特定の方だけのようですが、どのような配慮がなされているのか、時に疑問に思うときがあります。
・2010 年 11 月に登録して、1 回以来があっただけで、全く依頼がないのに、現任研修は参加しないと登録がなくなってしまうというシステムがよくわからない。
・初めて担当する盲ろう者に対する情報が少なすぎる。　・コンスタントに依頼が来ない。→だんだん技術が劣る。・活動報告書を郵送するのが手間。・困ったこと、悩んだことを相談・解決する場がない。・社会的認知不足のため、女性の盲ろう者の介助で、白杖をしまって移動する場合も、男性の盲ろう者の介助で白杖をしまっている場合も、男性通訳者は誤解を受けて活動しずらい。
・通訳介助の登録したのに、依頼がなさすぎ！全通訳・介助者に平等に依頼が来るようにすべきだと思う。いくら研修をやっても、実際に通訳介助をしなければ、何の意味もないと思う。派遣担当の方のセンスを疑わずにはいられない。
・まだ一度も活動依頼がないので何とも言えませんが、せっかく以前受講したにもかかわらず、実際その受講で身についたものはなく、現在、協会の方でどんな活動を行っているのかも全くわからない状態なので、活動内容等の物があれば教えてほしいです。そして、1～2 日間の受講でも何かずっと使える通訳・介助法を学ばせてほしかったと思っています。
・家族の病気等で４～５年活動してないが、活動予定表を提出しても半年以上１件の依頼がなく、派遣事務担当の私的感情（自分の地域の介助委員）が入っている様なことを聞く。介助員の初めのころ、通訳をうっかりせず途中からあわてて…あとで盲ろう者にわびて「いいよ」と言われたが、その後私の名前を聞くとろこつに嫌な顔をする。その後通訳はやりたくなくなった。指点字の練習中、疲れるのはわかるがいねむりをされるとがっかりする。盲ろう者と介助員がほぼいつも決まった人だが、育てる気持ちも盲ろう者も持って欲しい。
・資格取得後、1 年以上経過が実践するチャンスが無いため、ほとんど忘れてしまっている。　同行支援の機会を多く設けてほしい。
・私の住む地域に盲ろう者（通訳介助が必要な）が少ないので、通介の依頼も非常に少ないです。常に接することができる状況ではないので、個々の方とのかかわり方を深められません。もっと活動できる機会を得て、盲ろう者との信頼関係を築きたいです。
・時間が可能な限り対応したいが依頼が少ない。
・時間がなくて申し訳ありません。そのような事情で何度かお断りしていたら、依頼が来なくなったので、申し訳ない気持ちです。
・登録してから 1 年以上たちますが、1 度も活動の機会がありません。周りには、盲ろう者がいないため、せっかく勉強した知識を使えることがなく、1 年もたつと、ほぼ初心者状態です。活動したいと思っても、どうしたらよいかわからないのが現実です。派遣要請が今後あったとしても（喜んでお受けしたいところですが）問題なく業務をできるかは不安でいっぱいです。登録済みの方々の多くは同じ気持ちであるのではないかと思います。

・この３年間全く依頼がありません。もっと活動をしたいと思っているのに、依頼がないので残念です。
・依頼も少なく活動の場が少ない。人によってコミュニケーション手段に違いがあり、手話や点字が主流のように感じる。要約筆記では限界を感じる。
・現任研修は必要でしょうが、受けないと登録取り消しになると毎回苦痛になります。・ここ２～３年まったく依頼が無いのはどうしてなのか？と思います。長いブランクは忘れてしまいます。

②活動できず

・もっと支援を提供、活動したいと思っていますが、仕事をもっているとなかなか活動日時が合いません。
・前は会長さんが近くにいて活動できましたが、手話通訳士の資格もないのでなかなか活動できません。勉強会もなかなかないし、あったとしても知らないでいることがあります。一人暮らしで収入も少なく、生活していくだけで精一杯ですが、役に立つことがあれば参加したいです。市でも勉強会を開いてもらいたいです。サークルだとなかなか参加できません。サークルだとただ参加しにくいです。
・盲ろう者通訳介助の依頼を多々いただくのですが、私自身地元で知的障害者の支援をしており、土日の行事となれば知的の方を優先してしまいます。時間が合わず心苦しく思いながらお断りしてしまいます。また、私には手話ができません。習おうと思いますが時間が…。手話ができないことも通訳をお断りする要因になっているかもしれません。
・講習は受けたものの、終了後パソコンの要約筆記のスキルアップ講座を一日受講しただけです。コミュニケーション方法が多岐に渡り、それを概論のみ習っただけで、何もできない状態です。役に立ちたいという気持ちはあるものの、空回りです。
・母の介護の為、昨年６月からお休みしています。
・仕事をしていると、関わることのできる時間が限られてしまい、さみしい。
・現在は活動を休止しています。在職中は仕事の関係上、自分の時間に余裕ある時しか参加できませんでした。ていねんごは、求職活動や再就職訓練において、ボランティア活動等は、就職したと見放されるため、現在は総ての活動を休んでいます。一銭の金銭も授受しないのに、不合理だと思います。
・本格的に活動したいと思っていますが、育児もあり、また自分自身が白内障と黄斑上膜除去手術をしたばかりで、なかなか思うように動けません。
・昨年よりパーキンソン病治験中。弟が重度知的障害者で、昨年成年後見人を申請。今年より司法書士に依頼、後見開始。母が８８歳で大阪まで介護にっ通っています。身体、体力的に通訳を引き受けるのは難しい状況です。交流にはたまに参加している。
・現在は個人的に他の用事が多く、盲ろう者の方には中途半端な関わり方しかできない。
・××盲ろう者の会に……ながら登録してはいますが、震災以来、精神福祉、身体支援を××市でやらせていただいているので、盲ろう者の移動には全く参加していません。こんなで参加（登録）資格あるのかと悩んでいます。主旨と違ってすみません。
・回数が少ないので（依頼は月１）、本人とのコミュニケーションが少ない（時間外で、何人かで食事などコミュニケーションの時間をとっている）。他に仕事をしているので、時間をあわせにいくい（通院介助なので、月曜に休みがとれるよう努力したい）。
・お知り合い同士（特に手話）で話していることが多く、疎外感を覚え、活動を遠慮しています。本当に指点字を必要とされている方はいらっしゃるのか疑問です。
・通訳・介助の依頼が時々来ますが、現在自分の仕事で手いっぱいで、なかなか時間が合わず、活動に参加したことがありません。手話は多少できるのですが、点字が全くできないので、自分には盲ろう者介

助は無理なのではないか…と自信がないのも一歩踏み込めずにいる理由の一つです。

・手話通訳しかしたことなく、やはり技術面に不安あり、仕事してることもあり、一度あった依頼も結局はことわらざるをえませんでした

・指点字や手話を覚えて活動したいと思っているが、家庭のことをやりながらで、なかなかできない。養成講座だけでは点字や手話を覚えるのは不可能である。通訳・介助の時は、自動車を利用することになるので、安全面で不安がある。

・仕事を持っていると、行事に参加しづらい。又は出れない。遠出があると苦手である。通訳に自信がない。

・習得した技術を使い、盲ろう者の役に立ちたいと思っているのですが、地域に通訳介助を必要とする盲ろう者が非常に少なく、遠くまで出かけて行って活動しなくてはいけない。

・現職との両立が難しい。

・私は教育公務員です。通訳介助料の受け取りができません。通訳介助料を受け取れるものを優先的に派遣してもらうため、他の通訳・介助員に負担をかけています。他の通訳・介助員が都合のつかない場合、料辞退で私が派遣されますが、教育公務員も通訳介助料を受け取って積極的に活動できるように貴協会から厚労省、文科省に働きかけていただきたくお願いします。

・2009 年に盲ろう者向け通訳・介助員養成研修会を受講させていただき、大変勉強になり、また、難しいことだと思ったのも事実でした。受講後に活動したいと思っていたのですが、自分の体調不良のため、参加できなくなり、大変心苦しく思っております。申し訳ございません。

・まだ踏み出す事ができない。

・登録していて依頼をいただいても、仕事の都合や家庭の都合で引き受けできないことが多く、とても申し訳なく思っています。

・一度しか受講しておらず、依頼もないので、やってないです。

・通訳・介助の派遣を頼まれても、別の仕事（不規則勤務）をもっているので、断ることが多々あります（仕事優先）。盲ろう者の方がいつでも気兼ねなく通訳・介助を受けられるような体制が必要と思います（ホームヘルパーが触手話や指点字の技術を身に付けるなど）。

・本業があるとなかなか協力もできず。また、現在は療養のため活動休みさせてもらっています。大変申し訳なく思います。西暦記入はすでに１０年以上前のことで、記憶たどれず無記入としました。

・仕事を毎日している為、なかなか依頼を受けられないこと。このまま登録していて良いのか迷います。

・技術と経験がまだまだ足りない。活動機会に自分の都合をなかなか合わせられない⇒できる範囲で続けたいと思うのみ

・ここ 2 年間程、手引き盲ろう通訳は受けておりません。個人的に忙しくなったことも要因の一つです。やはり自分の体力低下が大きいです。サークルに盲ろうの方が参加してくれます。その程度内での会話通訳はしております。

・学業とバランスをとりながら、通訳・介助活動をさせていただきたいと思い登録の手続きをとっていただきましたが、親が高齢で、急に手助けが必要になり、思うように時間がとれなくなったことで、ほとんど活動ができていません。申し訳なく思っています。（個人的な事情なのですが。）

・通訳介助活動が通常の仕事以外の土日祝日に限られているので、盲ろう者からの依頼に断ることが多いので、心苦しく思うことがある。

・本当はもっと通訳・介助活動をしたいのに、断ってしまう状況のことが多くて、とても申し訳ないと思う。学生だから仕方がないと言えばそうなのですが・・

・困っている事ではありませんが、最近は他の行事と重なる事もあり、通訳・介助活動、盲ろう者行事、交流に参加できず、関わりを持てずにいます。盲ろう者行事（友の会の活動等）に関わっていない自分が通訳・介助活動することに、申し訳なさと抵抗を感じてもいます。
・本職の仕事がふたんになっている今ですが、介助活動中に危険な事があってはいけないので、活動を中止しています。その事が大変申し訳なく思っています。又、講習会で覚えた事を使わない事で忘れているので、本当は登録をやめた方が良いのかとも考えてしまいます。しかし何かあった時には、お手伝い出来る様にしていたいとも思い悩んでいます。
・平日は仕事のため活動ができず、土、日のみとなります。家の都合もあり活動日数が少ないので、依頼があっても断ることがあります。そんな時、申し訳なく思うことが多々あります。
・私は聴覚障害者、相手の話しかけが声はわかるが言葉としての聞き取りが困難なため、一度接近手話を依頼されたが、全く役に立てず落ち込んでしまった。それ以来、盲ろう者の中に入って行けず集いに参加する気持ちが遠のいてしまい気分的におっくうに。集いの連絡があるたびに申し訳ない気持ちになっている。手話通訳を読み取り、それを接近手話にて伝えることは難しいと思いました。
・通訳の際、周りが分からない。周りの情報を伝えたくても、私が状況を判断しにくいことがある。健聴の人に尋ねてもあいまいな答え、うまく教えてくれなかったり、周りがざわざわして状況がつかみにくい。通訳の際、周りの情報を伝えてもらえるボランティアが必要と思う。
・仕事の関係上、一度も通訳・介助をしたことがありません。技術の上でも不安がいっぱいあります。たくさん交流できればよいのですが、全くしていないので、どんどん忘れていっています。
・困ったことは今は特にありません。逆に、あまり通訳・介助をお受けできないのが心苦しくもあります。毎日盲ガイド依頼があるので。困った時は、その都度、事務所に問い合わせて指示を受けているので、大丈夫です。
・盲ろう者の会議で指点字通訳を何回かしたが、同時通訳が難しい。会話ならできますが、同時通訳だと、通訳している間に話をしている人たちの内容（特に数字関係など）忘れてしまいます。それで、自分には同時通訳が向かないと思い、ここ2年間、まったく活動していません。会議の通訳の際、話の内容を忘れてしまう自分がイヤになっています。
・現在は時間的に余裕がほとんどなく、通訳、ガイドヘルパーに登録はしているものの、通訳、ガイドヘルパーとして活動は全くできておりません。時間が出来れば現任者研修等を受けて少しでも活動出来ればと思っています。
・講習を受講後、やる気とは逆に生活環境が変わり、活動ストップしてしまいました。今は子供に全力投球しております。そのうち一から再スタートしたいと思っております。すみません。
・活動・研修はほとんど参加できていません。友の会発足の時ぐらいに介助員になって、その後仕事が忙しくなり、活動できないのが現状です。退職後少しずつ復活したいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

③活動のやりがい

・ガイドヘルパーをしていますが、とてもやりがいを感じています。盲ろう者とのコミュニケーションの場があればやってみたいと思います。
・指点字を学んでいるが、通訳介助の場面で使ったことがなく、モチベーションが下がっているが、今後も続けたい。
・盲ろうの方自身、大変常識を持ち合わせておられ、接してくださいます。よって、私の方が学ばせて頂

いているという思いが強く、やりがいを感じて通介に励むことができていると思います。年齢的にも健康に留意して頑張りたいです。

（８）その他

①所感

・盲ろう者向け通訳・介助員養成講座を１年間に２～３回やっておられるのですが、むだだと思います。それは、その会に登録しても依頼がない人が多いからです。盲ろうの人もその点、考えられたらよいのではないでしょうか？介助にしても、同じ人ばかりです。それなら、1年に1回ぐらい講座をやられても、良いのではないでしょうか？

・これからも続けたい気持ちは強いのですが、自分自身の年令・体力を考えると盲ろう者に満足のいく介助が出来ないと判断した時、登録を下りたいと思います。

・仕事をしているので、盲ろう者通訳、介助の経験が少なく、年齢的、能力的にも新しいことが身に付きません。今できる範囲で経験を少しでも増やしていきたいです。

・介助活動等が近くにあるときには行けるかどうかわかりませんが、連絡してほしい。

・専門的な技術が身に付かないとわかっていて、通訳と引き受けるのはお互いにとってよくないと思う。養成では、手話ができるだけで「即戦力」と言われたが、それは違うと思う。大変危険な発想では？

・通訳介助から時間があまりに経ってしまうと技術的な面で若干消極的になってしまう、というのが自分の中で一番強く感じられます。

・通訳介助の依頼は県庁所在地のある市の団体から来る。活動する場所もその市ばかりである。通うのが大変だから文句を言うのではなく、地方都市にも盲ろう者はいるはずであるが、多分まったくサポートされていないのではないでしょうか。交流会の案内ばかり来て、通訳介助依頼が非常に少ない。気を遣っているのでしょうか？予算がないのでしょうか？積極的に話しかけるのは苦手ですが、夜中だろうが無償だろうが、犬の様に使ってくれて構わないと思っているのですが。

・まだ経験が少ないので何ともいえない。研修には参加している。気づかなかった面などの話、気づいたことなどとても参考になる。駅、乗物などプライベートな面での介助活動はない。団体活動内における範囲でやっています。

・養成講習会を修了後、これまでに3回、2名の方の音声通訳を担当させて頂きました。講習会での学びは大変有意義で、講義、演習ともに解りやすく、また深い内容でした。基本的なことを教えて頂きましたが、やはりそれだけでは「身に付く」までには至りません。自分なりに書物を購入したりしています（手話辞典、手話うた中心)。「実際に盲ろう者とかかわることが唯一の学びであり、身に付く早道」という励ましの言葉に支えられて通訳・介助活動に取り組もうと思いました。たった2名の方の、たった3回の音声通訳でしたが、やはり「その方」を多少なりとも知らないと難しい点がある、というのが実感でした。声の大きさ、トーン、スピード等は、その方にこれで良いでしょうか？と確認すれば良いことですが、それ以外のことも非常に関わってくることを知りました。また、通訳・介助活動の際、その内容についてある程度知らないと、こちらが通訳に間に合わないこともあります(役員会での正式名称、専門用語等)。

・みなさん、毎日一生懸命頑張っておられます。自分の経験上、善いと感じたことはそれとなく会話の中に入れたりしますが、あくまでも主は依頼主であります。納得のいくアドバイスをいたしたいと思います。依頼者とはいつも楽しく任務を遂行しております。

・養成講習を終えて、自ら現場に行くのには、気持ち的にハードルがある。半年～1 年位、現場に交流に行ける（気軽に）しかけがあればと思う。街でみかけると、いいなぁ！と思いながら見ている。やはり、手話の技術も、ろう者としっかり伝わった通じたという思いがなく、自信がないという思いが、二の足を踏んでしまっている。盲ろう者に対しては、ハードルが高い感があり、開かれた場、手話が未熟でも構わない、まず行こうと思う自分にしなくては!!ちょっとだれかがひっぱってもらえたら行けるのかな？

・研修後、登録をして 2 回程、お仕事の依頼がありましたが、簡単な手話や指文字程度で自身がありませんでしたが、気持ちはありました。近くでお仕事があれば頑張りたいと思います。

・ボランティアで始めたのですが、盲ろう者支援活動 2 年ぐらいやりました。年間費の支払い、一緒に活動する時、参加費、出費が多く、ボランティアとしてはお金なくては活動できない会のあり方に寄り添えないので退会しました。他の方法で支援できるのであれば協力したい。

・殆ど介助の経験がなく、盲ろう者と深いつながりを持った経験がありません。

・昨年初めて仕事をさせていただき、嬉しく思ってます。出来るなら、杉並、武蔵野の方のお手伝いを…と考えてます。

・以前、通訳・介助をした際に、病院への通院と通訳・介助でしたが、時間が予定より早く終わり、本人（盲ろう者）がパチンコに一緒に同行してくれと言われ、しょうがなく付き添ったが、最初の予定にはない介助だったので、まったく困惑した。60 才を過ぎているので、いつ通・介を辞めようかとよく思う。集中力・注意力がなくなってきてるので、迷惑をかけないうちに…それはいつなのか？登録した方がよいのか。パート勤めと本の点訳ばかりしている現状。月一度の指点字に参加しているだけ。

・聴覚障害がある通訳・介助員だと、どうしても活動制限ができてしまう。歯がゆさが残ります。他の仕事も持っていることもあり、ろう協会の活動もあり…活動日が限られてしまうので、このままの状態で続けていいのか悩むことがあります。

・手話通訳の経験ああります が、盲ろう者通訳経験はありません。盲ろう者の知り合いがおりますが、会った時はコミュニケーション方法を教えてくれるので、個々に合った方法で話していました。色々と生活する上での工夫を教えてくれ、関心しています。以前盲ろう者への通訳をしている場を見たことがあり、気になったことは、通訳側の服装でした（薄すぎ）

・経験していない。

・特に今のところ困っていることはありません。

・下見、事前準備、自己研鑽等の出費がかさみ、新たな通訳・介助員の呼びかけに、二の足を踏んでいる。盲ろう児が者へと成長したあと、県内の通訳が育つか不安。

・高齢なので、いろいろな面で気をつけています。

・良く言えば「臨機応変」でその時の状況に応じて対応や考え方もかわります。絶対のマニュアルがないので、それが臨機応変であり、またその都度判断が求められて困ることです。「あの人はこうしたのにこの人はちがう」などと言われることも多いので、自分が何かの前例になってしまうような行動をとらないように気を遣うので、それが盲ろう者との深いつきあいに（理解）につながらないような気がしています。また自分としては手話通訳を目指していることもあり、二兎追うもの一兎も得ずで、どちらも身につかないジレンマを感じています。

・聴覚障害なので、（講師が健聴者のとき）舞台通訳の手話がどのような通訳か気になります。前に地元の手話通訳者で、ききだめて表現が遅くなる例があり、他の盲ろう者は通訳（健聴者）が始まっているのに、ろう通訳は舞台の通訳者のリズムに合わせねばならないこと。（逆に言えばろう者の講師の時、

よみとり通訳がスムーズでないと健聴通訳もやりにくいのは同様。）
・研修会等に参加する時間が足りない（家庭の事情…）。
・力不足なので通訳にも自信がなく、積極的になれない。
・介助にあたり、閉鎖的なる日本の法律や制度を、早く欧米諸国に達するレベルにして、通訳・介助者が障害者と共に、自分たちのお互いの「想い」をぶつけ合う関係でありたいものです。
・自分の技術の未熟さで、盲ろう者に不自由や不利益、不快な思いをさせてしまっていないか、常に気がかりです。通訳・介助の経験が少ないこともあり、毎回新たな発見があり、盲ろう者の豊かで奥深い世界に強い魅力を感じます。通訳・介助だけでなく、友の会の交流などを通して、さらに盲ろう者について知りたいと願います。
・しばらく手話から離れていたため、忘れた手話、新しい手話に戸惑い、自信をなくし、年齢的にも通訳活動はしていきたいけれども・・と悩んでいます。若い人の通訳のすばらしさに増々自信をなくしている状態です。また、サークルに仕事を辞めているので時間もあるし通い・・でも、やはり指導者によるのか、ろう者より指導者が前に出てしまっている。現在、私の通っているサークルで、覚えようにも覚えられない悩みもあり、何についても消極的になってしまい、今すごくしんどいです。又、肩、膝の痛みがあり、リハビリに通っているため、登録はしたいけれども・・・
・手の甲に汗をかくたちなのが困る。触手話は向いてないと思う。
・手話の勉強会で盲ろう者の方が必ずおられるとは限りません。日常生活でも出会えたら、コミュニケーションできるのにと思います。　・勉強不足で積極的に通訳をする自信もなく、これからもう少し頑張ろうと思っています。
・自宅から１時間ぐらいで通える方でしたら可能ですが…。
・現在パートをしており、××県盲ろう者には登録してません。全盲協会からの定期的な情報はありがたいです。私は宗教家ですが、団体の中に持ち込まないようにしています。県、市の方でいつか活動しなくなってしまうのかと思っています。当事者の方を尊重しながらも、通訳・介助員のことをよく知るとはいえ、根ほり葉ほり聞かれると困ることはあります。いつも一般的を尊重しています。
・活動するにはまず自分が心身共に健康でないとできないが、私自身も身体障害があるので障害自体のことでつまづく（足の調子が悪くなる）と活動ができなくなる。（現場での通訳はできても移動等介助が全くできない）。正に今その状態（両松葉使用を強いられていている。普段は義足で普通に歩けるのだが…）で、残念！！というか、はがゆい思いをしています。早く普通に活動したい。問いの意味（趣旨）とは全く違いますね。すみません！！でも今の正直な思いです。
・視覚障害があるので、ほとんどボランティアです。ガイドを依頼されるのは無理としても、実際に活動なんてあり得るんでしょうか？疑問を感じます。
・2 月に入ってから、本格的、通訳・介助の実践（依頼をうける）ことになりますが、県内での該当者が少数のため（障害状態の固定？例えば、指点字での通訳該当者がいない）、常に自分のできる介助・通訳スキルの上達に努めていき、いざという時のために研きをかけたいと思っています。これから実践で問題点、改善点をみつけたいと思います。
・知力、体力共に劣って来ましたので、今迄も音声等の楽な介助のみさせてもらって居り、やりがい等とは程遠い事しかできて居ません。引退すべきか
・まだ経験が浅いので、接する機会を増やしていく必要を感じています。手話、点字の技術の向上に努力します。
・A さんと B さんが話している内容は想像でのことで真実ではないからやかましい。他人にいろいろ言わ

れるのが嫌で、友人と会うのを控える。助けたくてもあゝ言うので避けています。利用券については困りました。（ひがんでいる、ねたんでいる人がいました）勘違いでで、残念です。

・講習会で習ったことと違う時に、対象者は盲学校ではこうであったからといわれ、戸惑いました。言われた通りにしますが、危険を感じる時あり、困ってしまいます。冬は雪が多く、移動介助は危険を感じるので休んでおります。交通手当が少なく、他はいくらぐらい出るのでしょうか？全国の皆さんの手当てが知りたいと思っております。

・盲ろう者の通訳・介助者として講習会を受け登録して 10 年が過ぎました。いろいろな盲ろう者の方々に又通訳・介助者の方に育てていただき今日があります。モデル事業の通訳介助を担当した時、戸惑うことが多々あり、自分の通訳技術不足に頭を抱えてしまいました。仲間に支えられて一つ一つをクリアーしていったように思います。盲ろうの他に知的・身体にも障害を持っていて、会話が難しい人がいます。盲ろう者の主体性とよく言われますが、伝えても戻ってこない会話に食事もこちらで決める、行きたいところも家族の人と相談する。彼女の表情と身振り（トイレ・いや・怒る）での判断で対応していますが、それでいいのか、どうしたら会話ができ、自立へ少しでも向かっていくのか日々悩んでいます。通訳・介助者の服装です。目が見えない、聞こえないので、どんな服装でもいいということではないと思います。盲ろう者にも失礼になるような人もいます。講習会の中でそんなマナーも一言入れていただければと思います。

・70 才に近づいていますので、体力的な面で迷惑をかけないか心配です。特に、県外への同行等大丈夫かなと悩んでしまいます。

・買物の通訳・介助の時に、「安いものがあれば」の依頼に経験がないため、その事を伝え、事実を伝えたが、事前にわかっていればいいものになったかと思った。

・通訳の後は大変疲れて（神経を使うためと思う）ガックリする時が辛い（私が高齢のためかもと思うけれど）。いろいろの面で「ストレスがたまらない」ということは言えないと思う。

・コミュニケーションが同じ盲ろう者が多く、違ったコミュニケーションの盲ろう者が来てもなかなか合わせることが出来ない。その場の雰囲気が悪くなる。

・実際に介助の経験がないので、現認研修の時に通訳・介助をしますと不安になります。

・まだ登録したばかりなのでよくわかりませんが、今後いろいろと活動を広げていく上で、通訳・介助側、盲ろう者側、お互いが尊重し合える仲であるといいな、と思います。

・特になし。困った事や疑問等があれば派遣元、講師、担当（派遣）者に相談し、アドバイス等もらえるので今のところはありません。

・過去に盲（弱視）で中途失聴の方で、筆談通訳を協会から依頼されたことがあります。私は聴覚障害なので触手話です。自分に適さない依頼で断ったら何故か次から依頼がこなくなりました。

・今はまだほんの少ししか活動していないので、特に書くことはありません。

・下らないことですが、服装について考えます。弱視の「黒色」を希望というものは除き、視覚的にどんな服の色でも問題ない場合、自分の好きな服装（ミニスカートやまわりに不愉快さを与えない限度の範囲）で良いと思っています。でもまわりから「仕事中」とわかるような服装が良いのか。外出時ではそこの雰囲気に合った私服で良いか迷います。

・盲ろう者との関わりに地域差もあり、介助の経験にも差がある。いつもの慣れた介助員への依頼が定着し、新規で登録した介助員の実践の場が確保できていない。実践するにも講座での時間数が短く、カリキュラム内容の充実も足りてないので、自信もついてない。盲ろう介助への課題はたくさんあると日々感じている。

・受講はしたが活動することはなく、継続して学習することもないので、点字など忘れてきている。
・相手に対して援助したいという気持ちはあっても、技術が伴っていないようで、現場で体験を積んでいくしかないのか、と思っています。
・自分の技術（手話）と体力に自信がないので、自分より上手な通訳者の方が、盲ろう者にとって良いのではないか、と考えてしまう。
・私は手話ができないので、盲ろう者とのコミュニケーションがとりにくく、ガイドヘルパーの活動はしていますが、口で言えば分ってもらえるので、どう伝えるかが難しいです。手話も教えてもらいましたが、短時間で覚えられるものでもなく、コミュニケーションがとれるほどになるには相当な時間がかかります。養成講座を受けてすぐにはクリスマス会や調理実習にボランティアで行ったりしましたが、最近は足が遠のいています。もっと盲ろう者と交流できる場があれば良いと思います。。
・健康であるがゆえに、相手（利用者）の気持ちを傷つけているのではと思いつつ、通訳・介助活動に参加しました。今も、したい気持ちと、傷つけているのではないかと考えてしまいます。
・自分の身長の問題です。とにかく背が低すぎますので。
・講習時間が短く、技術が未熟のまま、派遣依頼されても、自信がなく断ってしまう通訳・介助員もいるようだ。私は友の会の交流会にできるだけ参加して、実際にどのようなコミュニケーション方法なのか、又、自分でもできる方法で盲ろう者と交流するよう努めている。友の会に障害者関連の資料を持参した際、盲ろう者の障害の程度によって点訳・拡大文字変換が必要となるなど、今まで気がつかなかったことが多い。正しい情報保障ができるよう努めていきたい。
・困っていることは特にありません。お互いに気持ちが通じ合えるように、コミュニケーション手段の技術を磨きたいと思うのみです。
・派遣によって依頼されているので、派遣元のその指導の下に動く通訳者であるため、問題などが生じた場合は自己判断ではなく、派遣元へ連絡して判断を仰ぐことになっている。　・人対人としての介助であるので、その間は自分の能力のせいいっぱいに努めたいと思っている。盲ろう者の方へ「楽しく過ごしていただけるよう努める」。　・愚痴を言いたい盲ろう者もいらっしゃるので、その場合は、聞き役に徹する。尋ねられればお答えをする場合もあるが。
・××県の場合、手話も点字もわからない中途盲ろう者の方々が大半です。当然ながら音声通訳も聞き難いです。途方に暮れています。又、ご高齢者が多いため、車イスや介護の範疇に入るような知識、情報も必要ですが、行政や盲ろう関係の事業を受託している機関との関係も含め、学習会、情報提供、予算など只々途方に暮れています。
・登録してまだ日が浅いので、戸惑うことばかりです。・移動介助の際、危険もたくさんあるのでとても緊張します。コミュニケーション手段も充分に身につけられているとは言えず、盲ろう者に申し訳ないです。
・高齢者層の人は目が痛いので１０～１５分位ゆっくり寝たあとパッチリになった触手話をしました。無理になると怒る顔がみえます。むずかしいと思います。
・答えが大半「どちらともいえない」となっているのは、まだまだ盲ろう者との関わりが少なく感じる部分が少ないのかもしれません。
・養成講習会を受講して、登録して短期間なのと、年齢がいってから受講したので覚えが悪く、例会、勉強会等に参加するようにはしているのですが、行くことが出来ない事もあり、自分に自信がもてなくて日々とまどっています。盲ろうの方々との接点が少ないので、分からない事が多いです。すみません。
・コーディネーターからの依頼をもとに通訳・介助活動をしているので、担当する盲ろう者の性格等を知

ることから始めているが、お互い理解し合えば楽しく交流できるようになるので困っていることはない。
・自分の体が悪いので、通訳・介助は難しい時がある。　・通訳・介助時間が短い良い。　・通訳・介助がたくさんいたら良い。
・乗り物の中などでは比較的配慮がされているのですが、道路上においては危険から守ることが大変です(特に自転車から)。一般によく云われている障害者に優しい街づくりをもっと進めていってほしいと思います。
・私自身、充分通訳できる力がないので、その力をつけたいと思います。　・手話や点字など、子どものころより学習する機会もあれば、通訳・介助者のすそ野が広がると思います。
・通介の技術・知識をもっともっと身につけたいのですが、時間が足りなくて・・作るのが下手なのかもしれません。地域社会での役割もあり、バランスがとれる動きができればよいのですが・・。盲ろう者１人１人ともっとゆっくり関われると良いのですが。伝えるのがやっとで相手の思いをゆっくり聞いてあげたいが、時間が取れない。チャンスがない。指点字、パソコン、ブリスタなどを使いこなせるようになってみたいと思ってはいます。まだまだ始まったばかりだと思うので、少しずつ歩んでいきたいと思います。ありがとうございました。
・別にありません。友人の１人として、付き合いができているので、付き合い方も普段通りです。
・種となる仕事は手話通訳であるため、回数の少ない通訳・介助活動において困っていることは現在はありません。
・身内に対する感謝の気持ちを持ってほしい。
・盲ろう者・友の会からのお付き合いなので、通訳・介助とはいえ、気持ちの部分。「入り込んでしまう」という一面がある。たとえばガイドヘルパーの仕事をしている時と、盲ろうの通訳・介助をしている時に同じような場面があったとき、家族的な気持ちになって考え行動すると思う。ただ仕事だから‥と簡単に処理できない気持ちがある。今は仕事で時間がない状態ですが、時間を作って活動したいと考えています。
・今後も通訳・介助員として心温まるサポートと自己研鑽を重ねて頑張っていきたいと思います。
・「下手やし通訳変われ」という。他者と比べる。障害者用トイレが使いにくい。(広すぎ、使い方がまちまち)。急な派遣の依頼がある。障害者用の駐車場が少ない。駐車場が狭いため危険。
・サポート経験が少ないので、なんとも言えない。
・回数を重ねていないため、答えが曖昧になって申し訳ありません。
・まだ経験が浅く、通訳・介助者の補佐的にしか活動していないので質問に答えられませんでした。ボランティアとしては介助しています。(仲間として)
・講習会は受けていますが、まだ実践活動がありませんので、盲ろう者へのサポートについてはよくわからないというのが本音です。１人１人盲ろう者となられた経過や心情が違うと思いますので、盲ろう者とはこのようなもの、という先入観は禁物だと思います。
・課題があまりに多すぎて書けません。
・日々の活動において、公的な派遣もあればボランティアの介助や通訳もあります。介助員の中には他の仕事を持っていたり、生活資金に余裕がある人ばかりとは限りません。都合が悪くて来られないと伝えた介助員に仕事を休んで来いと強制するような発言や態度が横柄なこともあります。多くの介助員を必要としている時に、こういう事で仲間が減っていくのは残念です。どう対応していくか悩むところです。
・色々の方と接していないので、今はありません。
・自治体が養成講習会が始まるようになった前に全国盲ろう者協会主催の現任研修を受けてきました。養

成研修を受講した記憶はないというか、覚えていないです。ただ、貴協会の賛助会員になったのと同時に通訳・介助員（訪問相談員）の登録をしました。（手話通訳の資格があった関係で）。改めて受講したほうが良いでしょうか？

・お金をほしい

・まだ通訳・介助活動の経験がありません。

・自分自身が耳が聞こえにくくなり、腰痛もありで、送迎介助をやっていたけれど、やめようかなと思っています。

・××県の友の会は、聴覚障害者協会の３０～４０歳と５０～７０歳との仲良くないので（喧嘩の事）、約３年前から××県の＊＊＊の会に入会しました。

・盲ろう者同士の中が悪い～ろうベースの場合、寄宿舎時の事を根に持っていたりで話し合いにならない事もある。その為会員数（介助員）が減ったり、魅力を感じない。

・通訳・介助をするだけで、盲ろう者だけで、会の運営、交渉がなり立っているのか？一部の人だけではないのか。自分の会では、日々の生活だけで他には目が向かない人が多い。

・立場の強い手話通訳が全体を動かしているように見える。以前は盲ベースの役員さんも数人いらっしゃったが、今では全員が聴覚ベース。利用のチケットがなくなった後の支援先がないのも問題だと思う。

・盲ろう会以外の集まりで音声通訳をする場合、一般の人たちに理解していただけるように、盲ろう者に対する世間の風当たりを良くなってほしい。

・前述しましたが、公務員になってしまったため、活動できない現状です。副業となってしまうためです。希望（介助員の）があれば賃金を受け取らなくても移動介助などができるようにしてもらいたいです。（賃金は寄付するとか）、盲ろう者の方からは通訳がほしいという声が聞かれますが、活動できず、もどかしく思います。

・私の家は公共の駅に遠いので、待ち合わせの時には、車で行って待ち合わせるしかない。バスも走って無いので！

・盲ろう者の数が少ないので、支援体制が充分ではないと思うが、今の現状からみると、友の会が細くても安定した形で、位置づいているので、少人数団体としてはうまくいっていると思う。盲ろう者一人一人のニーズを掘り起こすためには、体制も作らないと生半可にはできない面もある。全国の動きがあまり届かないし、その点がう・・・ん。

・１対１の通訳・介助活動の場合、急に介助員に何かあった時、盲ろう者の方はわからず、一般の人とコミュニケーションがとれないから、困るだろうなと思います。その場合の対処法を考えてほしいです。例えば、盲ろう者の方に名札を付けてもらい、何かあった時の連絡先を記入するとか、介助員が名札を付けて、盲ろう者の介助をしているから、私に何かあった時はここに連絡してくださいと書くとか・・・

・通訳・介助はボランティアであるという社会的通念です。仕事として認知されることが、盲ろうの方々の社会の中での地位向上へもつながると存じます。

・緊急ボタンをあってほしいです（盲ろう者向け）。

・通訳・介助活動を主な収入としたくても、収入が不安定で業務時間が不規則なため、他の仕事に就かなければならないなと思う。

・通訳・介助活動の件、盲ろう者はお互いに知っているのに、登録されていない人なのに依頼しています（している人がいる）。これでいいのか疑問をもっている。

・経験がまだ多くないため、困っていると感じる場面も少ないですが、地域ごとの防災マップ（避難場所、盲ろう者の連絡先、派遣センターの連絡先（メモ式）と広域地図が冊子になっているもの）などの配布

があれば、とても助かると思います。

・1、通訳介助の依頼者が盲ろう者の係員（依頼申し込み者）に派遣 OK の連絡を忘れ、私がうかがうと、依頼していないと盲ろう者に蹴られたり、ものを投げられ、帰れと罵声を浴びた。2、依頼者は自覚がなく、「ごめん」と軽く済ませる。3、その上司は県から「天下り」で自分の立場だけを守ろうとし、謝らず、高飛車な態度で傲慢と同時に人間性に欠け、自分の手柄だけを重視し、それに手助けしない（関係ない）人たちには高圧的な言動で反省は全く見られなかった。それで私は通訳介助をやめました。

・困ることではないが、息子が盲ろう者です。同居してます。

・私は現在、自分の勤務先でアッシャー症候群による弱視難聴の男性（60 歳代）のサポート（実質的な通訳・介助）をしながら仕事をしています。本人との関係は良好で、互いに助け合いながら働いていますが、職場の同僚や上司、勤務先が病院なので、活動に来られる患者さんなどにその人のもつ障害を理解してもらうのは容易ではありません。聞こえ方にムラがあり、聞き取りやすい声の相手とはスムーズに会話できるが、どんなに大きな声で話しかけても聞き取れない声の人には反応しないといったことが、人を選んでいるとか、ワガママだというように受け取られてしまうのです。視覚障害とか聴覚障害については、世間的にも割と理解されやすいように思いますが、盲ろうという状態はあまりにも種類が多いので、ただ縁あって一緒に仕事をしているだけの人たちに正しく理解してもらうのは、容易なことではないのだと痛感させられています。やはり私たちは、一般の方々にもっともっと盲ろう者の存在を知ってもらえるよう啓発活動をすべきだと思います。私も視覚障害者ですが、周囲の温かい理解がなければ、私たちは一般社会で生きていかれません。たまたま一緒に仕事をすることになった障害者を仲間として受け入れ、協力し合いながら生きていきたいという気持ちをみんながもってくれたら、真のバリアフリーが実現するのではないでしょうか。

・通訳・介助員としては、2001 年のきらら博の時に活動していた記憶はあるのだが、　開始が何年か覚えていない。また昨年１年間でどれだけ活動したかも自分で記録をとっているわけではないので、はっきりとはわからない。　また、利用券を受け取る活動と受け取らない活動があるし、役員をしていると、派遣としての活動はできないことの方が多い。　ボランティアなのか、仕事なのか区別のつかないことの方が多いし、友だちとしてのおつきあいなのか、クライアントとして対応すべきなのか、わからないことも多い。私としては、普通のボランティアの方が気が楽でよいと思うことの方が多い。（決して手抜きをしているわけではない）